○第九類　曆　休暇

○曆

○一枚略曆出版方　明治二十三年十月　文部省令第二號

明治十五年四月太政官第八號布達第二項ニ依リ出版スル所ノ一枚摺略曆ハ自今左ノ規定ニ依ルヘシ

一　一枚摺略曆ハ左ニ列記スル事項ニ限リ記載スルモノトス

一　年號及紀元ノ年數干支

一　每月ノ一日

一　日月食竝其時間

一　大祭祝日竝神社例祭大祓

一　日曜表甲子表庚申表己巳表

一　二十四節氣及雜節

一　新月滿月

一　前各項ニ相當スル陰曆日干支及陰曆ノ朔日干支竝之ニ相當スル陽曆日

以上ノ事項ハ帝國大學ニ於テ編纂スル所ノ曆ニ依ルヘシ但前各項規定ノ外本曆略本曆ニ揭載セサル事項ヲ記入スルハ此限ニ在ラス

○休暇

○外交官領事官貿易事務官公使館書記及其領事館書記生賜暇歸朝規則 明治二十四年七月勅令第七十四號

朕外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生賜暇歸朝規則

第一條　外交官領事官貿易事務官公使館書記生及領事館書記生引續歐米諸國ニ滿四年以上又ハ東洋及南洋諸國ニ滿三年以上在勤シタルトキハ外務大臣ハ公務ニ差支ナキ場合ニ限リ本人ノ願ニ依リ賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得

第二條　歐米諸國ト東洋及南洋諸國ノ間ニ轉勤シタル場合ニ於テハ前條ノ在勤年期ハ新任國在勤ノ例ニ依ル但轉勤ノ後滿二年以上在勤スルヲ要ス

第三條　賜暇歸朝ノ者ハ往復日數ヲ除キ滿六箇月以內ニ出發歸任スヘシ但相當ノ理由アリテ期限內ニ出發シ難キ者ハ外務大臣ニ於テ豫メ日ヲ限リ特ニ出發延期ヲ許可スルコトアルヘシ

○第十類　恩給

○恩給

○宮內省官吏恩給例　同准官吏恩給例　同官吏准官吏遺族扶助例 明治二十三年八月宮內省達第十六號

明治二十年達第二號宮內省官吏恩給例明治二十二年達第二十四號宮內省准官吏恩給例ヲ廢シ宮內省官吏准官吏遺族扶助例左ノ通相定ム

宮內省官吏恩給例

第一條　宮內省官吏判任以上ノ者退官シタルトキハ本例ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ給ス

第二條　左ノ事項ハ明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ規定ノ條項ヲ適用ス

一　在官滿十五年以上ノ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合及其給額

二　傷痍疾病ニ罹リシ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合及其給額

三　在官年數ノ計算竝明治四年七月以前ノ在官者ニ對スル支給方

四　恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ退官シタルトキ支給ノ區別

五　恩給ノ停止及剝奪

六　恩給ヲ受クル資格ノ存否

第三條　宮內大臣ノ在職年數ハ國務大臣ノ例ニ依ル

第四條　政府ノ文官ヨリ宮內官ニ轉任シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ政府ヲ退キタル後宮內官ニ任シタル者ハ政府ノ判任官以上ニ在リシ月數モ在官年數中ニ通算ス

第五條　准官吏（宮內省官制ニ於テ特ニ指定シタル進判任以上ヲ云フ以下皆同シ）ヨリ官吏トナリタル者ハ准官吏在官年數五分ノ一ヲ減シテ官吏在官年數ニ通算ス

第六條　准官吏ヨリ官吏トナリタル當月ハ官吏在官年數中ニ算入ス

第七條　俸給ヲ受ケサル官吏並高等官試補判任官見習補助員顧問員評議員又ハ御用掛勤務殿掌殿部其他何等ノ名稱ヲ附スルモ宮內省官制外ニ屬スル者ニハ恩給ヲ給スルコトナシ但高等官試補及判任官見習ノ傷痍疾病ニ對スルモノハ此限ニアラス

第八條　恩給ノ支給ハ其所管長所管長ナキ者ハ內事課長ノ證明ニ依リ調査課ノ審査ヲ經テ宮內大臣之ヲ裁定ス

第九條　前條ノ裁定ニ服セサル者ハ六箇月以內ニ宮內大臣ニ具狀シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第十條　前條再審査ノ請求アルトキ宮內大臣ハ特ニ審査委員ヲ命シ審査ノ上裁決ス此裁決ヲ以テ終結トシ他ニ告訴スルコトヲ得ス

第十一條　恩給ハ賣却讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トナスコトヲ得ス

第十二條　恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年ヲ過クレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十三條　明治二十年達第二號官內省官吏恩給例ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ其恩給例ニ依ルヘシ但停止及剝奪ハ本例ニ依ル

第十四條　判任官以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ明治二十三年勅令第九十八號ヲ適用シ一時賜金ヲ給ス

宮內省准官吏恩給例

第一條　宮內省准官吏（宮內省官制ニ於テ特ニ指定シタル進判任以上ヲ云フ以下皆同シ）ノ退官シタルトキハ本例ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ給ス

第二條　左ノ事項ハ明治二十三年法律第四十三號官吏恩給法ニ規定ノ條項ヲ適用ス

一　在官滿十五年以上ノ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合

二　傷痍疾病ニ罹リシ者ニ對シ恩給ヲ給スル場合

三　在官年數ノ計算竝明治四年七月以前ノ在官者ニ對スル支給方

四　恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ退官シタルトキ支給ノ區別

五　恩給ノ停止及剝奪

六　恩給ヲ受クル資格ノ存否

第三條　准官吏恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官ノ年數トニヨリ之ヲ定ム　即チ在官滿十五年以上十六年末滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ恩給年額四百分ノ八十トシ滿十五年以上一年毎ニ四百分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム　但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス

年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス　兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算ス

第四條　官吏ヨリ准官吏トナリタル者通算シテ十五年ニ滿ツルトキハ官吏在官年數ニ五分ノ一ヲ加ヘテ准官吏在官年數ニ通算シ其加算ノ年數竝爾後勤續ノ年數ニハ第三條ノ算則ヲ以テ滿一年毎ニ四百分ノ一ヲ加ヘ加算ノ年數ヲ併セ滿四十年ニ至テ止ム

第五條　官吏滿十五年以上在官ノ後准官吏トナリタル者ハ其准官吏退官ノトキニ於テ准官吏在官年數ノ五分ノ一ヲ減シテ官吏在官年數ニ併算シ官吏恩給支給ノ例ニ依ル

第六條　官吏ヨリ准官吏トナリタル當月ハ官吏在官ノ年數中ニ算入ス

第七條　宮內省官吏恩給例第四條第八條第九條第十條第十一條第十二條ハ本例ニモ適用ス

第八條　准官吏在官滿一年以上十五年末滿ニシテ退官シタル者ニハ明治二十三年勅令第九十八號ヲ適用シ一時賜金ヲ給ス

宮內省官吏准官吏遺族扶助例

第一條　宮內官吏准官吏判任以上ノ者左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ本例ノ規定スル所ニ依リ其遺族ニ扶助料ヲ給ス　但第二條ノ納金ヲ爲スヲ要セサル者ノ遺族ハ此限ニアラス

一　在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二　在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三　恩給ヲ受クル者死去シタルトキ

第二條　左ノ事項ハ明治二十三年法律第四十四號官吏遺族扶助法ニ規定ノ條項ヲ適用ス

一　寡婦扶助料ノ年額

二　扶助料ヲ支給スヘキ者及支給轉給ノ制限

三　扶助料ノ廢止停止

四　扶助料ヲ受クヘキ資格ノ消滅

五　在官十五年未滿ニシテ在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタル者ノ遺族ニ給スル一時扶助金

第三條　官吏准官吏判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ內藏寮ニ納ムヘシ

俸給ヲ受ケサル官吏竝高等官試補判任官見習補助員顧問員評議員又ハ御用掛勤務殿掌殿部其他何等ノ名稱ヲ附スルモ宮內省官制外ニ屬スル者ハ納金ヲ要セス又兼官ニ依テ受クル加俸ニ對シテハ納金ヲ要セス

第四條　扶助料ノ支給ハ本人元所管長所管長ナキ者ハ內事課長ノ申牒ニ依リ調査課ノ審査ヲ經テ宮內大臣之ヲ裁定ス

第五條　前條ノ裁定ニ服セサル者ハ六箇月以內ニ宮內大臣ニ具狀シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第六條　前條再審査ノ諸求アルトキ宮內大臣ハ特ニ審査委員ヲ命シ審査ノ上裁決ス此裁決ヲ以テ終結トシ他ニ告訴スルコトヲ得ス

第七條　扶助料ハ賣却讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵當トナスコトヲ得ス違フ者ハ扶助料ヲ停止ス

第八條　扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ三箇年ヲ過クレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月
法律第九十號

朕市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料法ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第一條　市町村立小學校ノ正敎員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一　年齡六十歲ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三　廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條　左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ增加退隱料ヲ給ス

一　職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二　職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條　官吏恩給法第五條第一項第四項第六條第十一條ハ退隱料ニ適用ス退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數ノ算定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

一　失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四　第二條第三條若クハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タヒ其職務ニ堪フルニ至ルコトアルモ仍府縣知事ヨリ指命セラルヽ所ノ敎職ニ就カサルトキ又ハ第二條第三ニ依リ退隱料ヲ受クル者府縣知事ヨリ指命セラルヽ所ノ敎職ニ就カサルトキ但其給料ハ退職現時ノ給料ヨリ少額ナラス且年齡未タ六十歲ニ至ラサル場合ニ限ル

五　府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

一　公務ニ就キ退職現時ノ給料額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二　三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三　公權ヲ停止セラレタルトキ

第六條　年齡未タ六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條　市町村立小學校ノ准敎員ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第二條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ給料四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第八條　在職滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル市町村立小學校正敎員ハ退職現時ノ給料二箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ給料三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第二條第三條又ハ第七條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月內ニ之ヲ請求セサル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ給與ヲ受ケサル者他日市町村立小學校正敎員ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退隱料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月內ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立テサル者ハ本文ノ限ニ在ラス

第九條　退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ市町村長ノ證明ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條　市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一　在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二　在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三　退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條　官吏遺族扶助法第四條第一項第二項第五條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癈疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給與スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條　在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職三年未滿ニシテ在職最終ノ給料一箇月分ニ當ル金員トシ三年以後滿一年毎ニ給料年額百分ノ二ニ當ル金員ヲ加フ

第十三條　扶助料及扶助金ノ支給竝第八條及第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス

第十四條　府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

市町村立小學校正教員ハ其給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

本條第二項及第三項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項及第三項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額四分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理竝退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

恩給基金ノ管理竝退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條　此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年度ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

明治二十三年十月二日法律第九十一號

府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法

第一條　府縣立師範學校長ノ俸給ハ國庫ノ負擔トス

第二條　府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第三條　在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一　年齡六十歲ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三　廢校ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第四條　左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ增加退隱料ヲ給ス

一　職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二　職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第五條　官吏恩給法第五條第一項第四項第五項第六條及第十一條ハ退隱料ニ適用ス

第六條　府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員ニ準スヘキ官立公立學校職員ヨリ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員ニ轉シタル者ハ該官立公立學校ニ於ケル勤務ノ年數ヲ退隱料等ノ給與上在職年數ニ算入スヘキモノトス其在職年數ノ算定ニ關スル規則竝府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員ニ準スヘキ官立公立學校職員ト認ムヘキ者ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス

一　失職ニ該當スヘキ現職中ノ所爲確定シタルトキ

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

四　第三條第二第四條若クハ第九條ニ依リ退隱料ヲ受クル者復タ其職務ニ堪フルニ至ルコトアルモ仍官ヨリ指命セラルヽ所ノ敎職ニ就カサルトキ又ハ第三ニ依リ退隱料ヲ受クル者官ヨリ指命セラルヽ所ノ敎職ニ就カサルトキ但其俸給ハ退職現時ノ俸給ヨリ少額ナラス且年齡未タ六十歲ニ至ラサル場合ニ限ル

五　府縣知事ノ許可ヲ經スシテ公務ニ就キタルトキ

退隱料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其時間退隱料ヲ受クルコトヲ得ス

一　公務ニ就キ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ給料ヲ受クルトキ

二　三箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三　公權ヲ停止セラレタルトキ

第八條　年齡未タ六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退隱料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第九條　府縣立師範學校及公立中學校ノ准敎員職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第四條ニ該當スル者ニ限リ退職現時ノ俸給四分ノ一ノ退隱料ヲ終身給與ス

第十條　府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員在職滿一年以上五年未滿ニシテ退職シタル者ハ退職現時ノ俸給一箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿五年以上十一年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給二箇月分ニ當ル金員ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ退職シタル者ハ俸給三箇月分ニ當ル金員ヲ給ス

第三條第四條又ハ第九條ニ依リ退隱料ヲ受クル者自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者又ハ前項ノ給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月內ニ之ヲ請求セサル者ハ前項ノ限ニ在ラス

自己ノ便宜ニ依リ本條第一項ノ與給ヲ受ケサル者他日府縣立師範學校及公立中學校長正敎員ノ職ニ就クトキハ前ノ在職年數ヲ以テ退隱料等ノ給與上ニ關スル在職年數ニ算入スヘキモノトス但其給與ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇月內ニ之ヲ受ケサルコトヲ申立サル者ハ本文ノ限ニ在ラス

本條ノ給與及之ニ關スル費用ハ退職者ノ退職ノ際勤務セシ學校所屬府縣郡市町村ノ負擔トス

第十一條　退隱料ノ支給ハ府縣知事ノ證明ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十二條　府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一　在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二　在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三　退隱料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十三條　官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍內ニ在ル二十歲未滿又ハ癈疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十四條　府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員ニシテ在職十五年未滿ノ者在職中職務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ニ就キテハ官吏遺族扶助法第十七條第二項ヲ適用ス

第十五條　扶助料及扶助金ノ支給竝第十三條第二項ノ給與ハ府縣知事ノ申牒ニ依リ文部大臣之ヲ裁定ス

第十六條　府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正敎員ハ其俸給百分ノ一

ヲ每年國庫ニ納ムヘシ

府縣郡市町村ハ其府縣立師範學校及公立中學校長正敎員ノ俸給百分ノ一ニ當ル金員ヲ每年國庫ニ納ムヘシ

第十七條　退隱料扶助料扶助金及第十三條第二項ノ給與竝其支給ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス

退隱料扶助料扶助金等ノ支給ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條　同一人ニシテ國庫ヨリ二種以上ノ退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ者アルトキハ本人ノ所擇ニ任セ其一ヲ給スルモノトス

第十九條　府縣立師範學校及公立中學校書記ノ退隱料等ハ府縣知事郡長市町村長ニ於テ府縣郡市町村會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得

府縣立師範學校及公立中學校竝市町村立小學校ニアラサル公立學校職員ノ退隱料等ハ前項ノ例ニ依ル

本條ノ退隱料等及其支給ニ關スル費用ハ其府縣郡市町村ノ負擔トス

第二十條　此法律第一條ハ明治二十五年度ヨリ之ヲ施行ス

二十六年度ヨリ第二條乃至第十九條ハ明治

第二十一條　府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○恩給及扶助料受領ノトキハ生存證書ヲ添付

七シム明治廿四年十月
大藏省令第廿四號

本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受クルモノハ無期受領ノトキハ本人生存證書ヲ恩給證書ニ添ヘ差出スヘシ

○宮內官省吏准官吏恩給例施行規則　同遺族扶助例施行規則

明治二十三年十月
宮內省達第二十號

宮內省官吏准官吏恩給例施行規則同遺族扶助料施行規則左ノ通相定ム

宮內省官吏准官吏恩給例施行規則

第一條　宮內省官吏恩給例第一條同准官吏恩給例第一條ニ揭ケタル官吏准官吏トハ宮中ニ奉仕スルト省務ニ從事スルトヲ問ハス宮內省ヨリ俸給ヲ給與スル者及皇族職員中宮內省ヨリ俸給ヲ給與スル者ヲ云フ

第二條　恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ所管長ナキ者ハ內事課長ニ差出スヘシ但部局ノ廢合ニ當リタルトキハ其事務ヲ引繼ヲ受ケタル部局長ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書ニハ在官中ノ履歷書ヲ添付スヘシ

第四條　公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者及恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痍疾病重症ニ赴キタルトキ恩給ヲ請求スル者ニ在テハ履歷書ノ外左ノ書類ヲ以テ其事實ヲ證明スヘシ

一　現認證書又ハ之ヲ證スヘキ公文ノ寫若クハ口供書

一　醫師ノ診斷證書

第五條　恩給ノ請求ヲ受ケタル所管長若クハ內事課長ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ第一號第二號第三號ノ書式ニ準據シ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ調查課ニ回付スヘシ若シ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ其意見ヲ附シテ之ヲ回付スヘシ

第六條　調查課長ハ前條所管長若クハ內事課長查覈ノ書類ニ據テ檢案シ宮內大臣ニ具狀ス大臣之ヲ允許シタルトキハ調查課ニ於テ恩給證書ヲ作リ所管部局若クハ內事課ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ調查課ハ之ヲ內藏寮ニ通知スヘシ

第七條　恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ前三箇月分ヲ內藏寮ヨリ支給シ受領證ヲ徵ス但資格消滅ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラス之ヲ支給ス

恩給ヲ受クル者東京市外ニ居住スルトキハ其恩給金ハ內藏寮ヨリ爲換ヲ

以テ送付スヘキニ付到達ノ上ハ直ニ受領證ヲ内藏寮ニ郵送スヘシ但受給者所在地ニ爲換ヲ取組ヘキ便宜ナキトキハ其近傍ニ於テ便宜アル地迄爲換ヲ取組送付スルモノトス

第八條　恩給ヲ受クル者其居住ヲ轉シタルトキハ内藏寮ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ内藏寮ハ之ヲ調査課ニ通知スヘシ

第九條　宮内省官吏恩給例第二條第五項同准官吏恩給例同條同項ニ當ル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ル

一　重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二　准判任官以上ニ任シ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三　公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十條　宮内省官吏恩給例第二條第三項同准官吏恩給例同條同項ニ掲クル明治四年七月以前ノ在官者ニ對スル支給方ハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額ヲ準據トシテ支給額ヲ定ムルモノトス

第十一條　公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リシ者ニ給スル最下金額十分ノ七マテノ增加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

一　兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ　十分ノ七

二　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ六

三　一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　十分ノ五

四　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ四

五　一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ　十分ノ三

六　前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ　十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ヲ適用ス

第十二條　恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ調査課ニ届出恩給證書ヲ返納スヘシ又第十三條ノ場合ニ於テハ裁判宣告書ノ寫ヲ添ヘ家族ヨリ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ調査課ハ直ニ之ヲ内藏寮ニ通知スヘシ

第十三條　恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ其確定裁判ノ宣告アリシコトヲ知リタルトキハ裁判所ノ通知ノ届出等ニ依ル本人家族ヨリ調査課ヨリ内藏寮ニ通知スヘシ内藏寮ハ之ニ依テ恩給ノ支給ヲ停

止シ又ハ復給スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ其旨ヲ調査課ヨリ本人ニ通知シテ恩給證書ヲ返納セシムヘシ

第十四條　水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ其事由ヲ具シテ調査課ニ申出ヘシ此場合ニ於テ調査課ハ恩給證書ノ謄本ヲ作リ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十五條　恩給ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ恩給證書ヲ添ヘ調査課ニ届出ヘシ調査課ハ恩給證書ノ裏面ニ其事實ヲ記シ調査課長署名捺印ノ上本人ニ下付シ之ヲ内藏察ニ通知スヘシ

第十六條　明治二十年達第二號宮内省官吏恩給例ニ依リ恩給ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

一　死去又ハ資格消滅又ハ停止ノトキ

二　恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三　改氏名又ハ居住ヲ轉シタルトキ

宮内省官吏准官吏遺族扶助例施行規則

第一條　宮内省官吏准官吏遺族扶助例第一條ニ掲ケタル官吏准官吏ハ宮内省ヨリ恩給若クハ恩給ヲ給スル者ヲ云フ皇族職員モ亦同シ

第二條　扶助料ヲ請求スルトキハ其請求書ニ署名シ（後見人アレハ共ニ後見人署名スヘシ）親族一名親族ナキトキハ他ノ戸主二名連署シ其市町村長（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戸長）ノ奥印ヲ受ケ市町村長ノ證明シタル戸籍謄本ヲ添ヘ請求スヘシ

第三條　扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ資格消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添ヘ請求ノ證トシ爲スヘシ

第四條　公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ添ヘ請求ノ證ト爲スヘシ

第五條　扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未滿ノ者又ハ癈疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコトノ能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキ又ハ孤兒二十歳ニ滿ツルモ癈疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ其事由ヲ詳記シ癈疾不具ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ

第六條　扶助料ノ請求ヲ受ケタル所管長若クハ内事課長ハ查覈ノ上第四號第五號書式ニ準據シ扶助料年額ノ計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ調査課ニ回付スヘシ

公務ノ爲メ受ケタル傷痍ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞動及困苦ヲ忍ヒ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ因リ傳染病看ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ遺族ヨリ扶助料ヲ請求セシトキハ所管長若クハ內事課長ニ於テ其傷痍若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類ヲ併セテ調査課ニ回付スヘシ

調査課長ハ所管長若クハ內事課長査覈ノ書類ニ據テ檢按シ宮內大臣ニ具狀ス大臣之ヲ允許シタルトキハ調査課ニ於テ扶助料證書ヲ作リ所管部局若クハ內事課ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用フ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ調査課ハ之ヲ內藏寮ニ通知スヘシ

第七條　遺族扶助例第三條ニ揭クル納金ハ俸給支給ノトキ內藏寮ニ於テ之ヲ徵收ス但別ニ會計ヲ設クル部局ハ其部局ニ於テ之ヲ徵收シ內藏寮ニ送付スヘシ

俸給ノ增減ニ依リ旣納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次回ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ

免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納

人ニ於テ差引スヘシ

第八條　扶助料ノ支給ハ宮內省官吏准官吏恩給例施行規則第七條竝第九條第一項第三項ノ例ニ依ル

第九條　扶助料ヲ受クル者其居住ヲ轉シタルトキハ內藏寮ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ內藏寮ハ之ヲ調査課ニ通知スヘシ

第十條　扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ資格消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ其扶助料證書ヲ調査課ニ返納スヘシ

前項ノ場合ニ於テ調査課ハ直ニ之ヲ內藏寮ニ通知スヘシ

第十一條　扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ宮內省官吏准官吏恩給例施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十二條　水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ宮內省官吏准官吏恩給例施行規則第十四條第十五條ノ例ニ依ル

書式署ス

○行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續

明治二十四年六月
閣令第二號

行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ノ權利ニ關スル恩給局裁決手續左ノ通定ム

第一條　行政上ノ處分ニ因リ恩給扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者恩給局ノ裁決ヲ請ハントスルトキハ其事由ヲ文書ニ認メ身分職業住所年齡ヲ記載シ署名捺印シ之ニ證據書類ヲ添ヘ閣內恩給局長ニ差出スヘシ

前項ノ書類ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

第二條　恩給局ニ於テ前條ノ申立理由アリト認ムルトキハ其書類ヲ當該官廳ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ添ヘテ之ヲ恩給局ニ差出サシムヘシ

第三條　恩給局ニ於テ必要ト認ムルトキハ請求者又ハ當該官廳ノ官吏ヲ召喚シ口頭陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　恩給局ニ於テ裁決シタルトキハ裁決書二通ヲ作リ請求者及當該官廳ニ交付スヘシ

○各官廳官吏ノ年齡在官年數俸給額等取調ヘ

恩給局ヘ報告方　明治二十四年六月　內閣訓令第一號

各官廳

各官廳官吏ノ年齡、在官年數、俸給額等毎年四月一日ノ現在ヲ取調ヘ五月一日迄ニ其官廳ヨリ發シ恩給局ヘ報告スヘシ其樣式ハ恩給局長ヨリ通知スヘシ但本年ニ限リ六月一日ノ現在ヲ取調七月十日迄ニ其官廳ヨリ發シ報告スヘシ

第十二類　褒賞　恤救

○褒賞

金銀木杯金圓賜與手續ハ法令類纂第一卷八百四十二丁ニ載ス

○明治十六年太政官第十七號達（金銀木杯金圓賜與手續）中追加　明治二十四年二月閣令第一號

明治十六年三月太政官第十七號達金銀木杯金圓賜與手續中左ノ通追加ス

第三條　及第四條中勅奏任官ノ下ニ「奏任官以上ノ待遇ヲ受クル者」ノ十三字及華族ノ戸主ノ下ニ「其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻」ノ十四ヲ加フ

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條　外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ內國人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及帝室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申牒シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシム

第十三類　府縣　郡市町村　市區改正

○府縣

○府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員竝ニ府縣會議員ノ選擧區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件　明治廿三年九月法律第八十五號

第一條　郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員ノ選擧ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第二條　郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ增減セス其ノ補缺選擧ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第三條　府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ

組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ從前府縣會議決ノ効ヲ存ス

第四條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス

第五條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス

第六條　郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條　府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

○府縣會議員定數規則

明治廿四年六月勅令第五十九號

府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

管內ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル每ニ一人ヲ增シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル每ニ一人ヲ增ス

第二條　前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ每郡市ニ割當選舉スルモノトス

第三條　人口增減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改選期ヲ待テ之ヲ增減ス可シ

○府縣會議員定數規則ニ揭ク ル人口計算方

明治廿四年六月內務省訓令第十號

府縣（沖繩縣ヲ除ク）

本年六月勅令第五十九號ニ揭クル人口ハ每年十二月末日ノ現位人口ヲ云フ但在營在艦ノ現役軍人ハ其營所又ハ定繫港所在地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

○郡市町村

○市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件

明治二十三年八月法律第七十七號

脫市町村名及市役所町村役場ノ位置變更ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

○郡歲入歲出豫算調製式竝ニ費目流用規定

明治二十四年四月內務省令第二號

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ玆ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條　郡歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歲入歲出豫算ニハ郡會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　數年繼續費（郡制第六十六條第二項）ノ年期及支出方法ト第二號ノ式ニ依ルヘシ

夫役現品ヲ增課スル場合ニ於テハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

第四條　歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條　各款項ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス

各目豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必用アルトキハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得（第一號）

明治何年度某府縣某郡歲入歲出豫算書

歲入

經常部

第一款　財產收入　金

第一項　不動產收入　金

第二項　動產收入　金

第二款　雜收入　金

第一項　授業料　金

第二項　物品賣拂代　金

第三款　各町村分賦額　金

第一項　各町村分賦額　金

經常部合計金

臨時部

第一欵　繰越金　金

第一項　前年度繰越金　金

第二欵　府縣補助金　金

第一項　某費補助金　金

第二項　某費補助金　金

第三欵　寄附金　金

第一項　某費寄附金　金

第二項　某費寄附金　金

第四欵　財產賣拂代　金

第一項　公債證書賣拂代　金

第五欵　郡債　金

第一項　郡債　金

臨時部合計金

歲入總計金

歲出

經常部

第一欵　會議費　金

第一項　郡會議費　金

第二項　郡參事會諸費　金

第二欵　郡吏員費　金

第一項　吏員費　金

第二項　委員費　金

第三欵　土木費　金

第一項　道路橋梁費　金

第二項　治水堤防費　金

第三項　港灣費　金

第四欵　教育費　金

第一項　某學校費　金

第五欵　衛生及病院費　金

第一項　衛生費　金

第二項　某病院費　金

第六欵　救助費　金

第一項　養育費　金

第七欵　勸業費　金

第一項　勸業會費　金

第二項　植物試驗費　金
第八款　財產費　金
第一項　維持費　金
第二項　管理費　金
第九款　豫備費　金
第一項　豫備費　金
經常部合計金　金
臨時部
第一款　土木費　金
第一項　道路橋梁費　金
第二款　某費本年度支出額　金
第一項　某費ノ內某費本年度支出額　金
第三款　郡債費　金
第一項　元金償還　金
第二項　郡債利子　金
第三項　雜費　金
臨時部合計金　金
歲出總計金　金

明治何年何月何日提出

某府縣某郡長　氏名　印

（第二號）

自明治何年度至同何年度某府縣某郡某費繼續年期及支出方法

一金　某費中　費某

內譯

金　明治何年度支出額

金　同　何年度支出額

右云々（議決ヲ要スヘキ事業ノ大要ヲ記載ス）

明治何年何月何日提出

某府縣某郡長　氏名　印

（第三號）

明治何年度某府縣某郡夫役現品增課方法

一土木費中某費夫役　若干人

此見積金

內譯

若干人　某町

此見積金

若干人　某村
此見積金
一同現品　若干
此見積金
內譯
若干　某村
此見積金
若干　某村
此見積金
明治何年何月何日提出

某府縣某部長　氏名　印

○市區改正

○東京市區改正條例第八條削除 明治二十三年八月勅令第百六十九號

東京市區改正條例ハ法令類編第一卷千六十丁ニ載ス

朕東京市區改正條例中削除ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東京市區改正條例中第八條　削除ス

○東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ニ關スル件 明治二十三年八月勅令第百七十號

朕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區內清酒輸入規則ノ規定ニ依リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京府市部會ニ屬スルモノハ東京市會ニ之ヲ屬セシム

第二條　市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財產トシテ下付シタル河岸地ハ之ヲ東京市ニ引繼クヘシ

第三條　明治二十三年度東京市區改正ノ收支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京市ニ於テ之ヲ存續スヘシ

○東京市區改正委員會組織權限中改正 明治二十三年八月閣令第六號

東京市區改正委員會組織權限ハ法令類編第一卷千六十六丁ニ載ス

明治二十一年八月閣令第十四號東京市區改正委員會組織權限中東京府區部會トアルヲ東京市會ト改メ東京府知事トアルヲ東京市參事會ト改ム

第十四類　學制

○帝國大學

○帝國大學令中改正削除　明治二十三年十一月勅令第二百六十九號

朕帝國大學令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令中左ノ通改正ス

第十一條　各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ

長	奏任
敎頭	奏任
敎授	奏任
助敎授	奏任
舍監	奏任
書記	判任
技手	判任

敎授ハ特ニ勅任トナスコトアルヘシ又長及敎頭ハ勅任ノ敎授ヨリ兼任ノ者ハ勅任トス

第十四條　削除ス

○中學校

○高等中學校法學部ノ學科及其程度第一條第四條中改正追加　明治二十三年十一月文部省令第三號

明治二十二年七月文部省令第五號高等中學校法學部ノ學科及其程度中改正追加スルコト左ノ如シ

第一條中法學通論ノ次ニ裁判所構成法ノ六字ヲ加ヘ訴訟法ヲ民事訴訟法治罪法ヲ刑事訴訟法ト改ム

第四條ノ授業時數表中法學通論ノ次ニ左ノ一行ヲ加ヘ訴訟法ヲ民事訴訟法治罪法ヲ刑事訴訟法ト改メ實地演習ノ行第一年ノ欄ニ二トアルヲ一ト改ム

| 裁判所構成法 | | |

會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童敎育事務ノ委託ニ對スル報酬金ヘ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條　府縣郡市町村學校組合ハ敎育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村若クハ町村學校組合內ノ區ハ小學校敎育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條　市町村立學校長其他校員學務委員及區長竝其代理者等ノ執行スル國ノ敎育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條　府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條　府縣郡市町村町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ學校基本財產ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ハ單ニ某學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ノ廢設竝支消賣却交換讓渡質入書入ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

學校基本財產ノ收入ヲ敎育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　府縣郡市町村町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ敎育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財產トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財產トナスコトヲ得

府縣郡ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財產トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財產トナスコトヲ得

第十一條　從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財產ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財產トナスコトヲ得

第十二條　府縣制郡市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務及關係ハ敎育ニ關スル事項ニ就キテハ內務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條　本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

○小學校令

明治二十三年十月
勅令第二百十五號

朕小學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

小學校令

第一章　小學校ノ本旨及種類

第一條　小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條　小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス

市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ一人若クハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

徒弟學校及實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス

第二章　小學校ノ編制

第三條　尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス

土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歷史圖書唱歌手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第四條　高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本歷史外國地理理科圖畫唱歌體操トス女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルモノトス

土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得又幾何ノ初歩外國語農業商業手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條　尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置クコトヲ得

第六條　高等小學ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條　尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條　尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇年又ハ四箇年トス

第九條　專修科補習科徒弟學校及實業補習學校ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得

第十一條　第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ置キ又ハ其併置ヲ止ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　小學校教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十三條　小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘキ場合一教員ノ教授シ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條　小學校ノ休業ハ日曜日ヲ除クノ外每年九十日ヲ超エサルモノトス但徒弟學校實業補習學校補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依ラサルコトヲ得

傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市內ニ在ル小學校ニ就キテハ府縣知事町村內ニ在ル小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テハ市町村長ニ於テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條　小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十六條　小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審査委員ニ於テ審査シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

審査委員ハ府縣ニ置キ府縣官吏府縣參事會員尋常師範學校長教員及小學校教員ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員及審査ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條　小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備ヘ又農科ヲ設クル小學校ニ於テハ農業練習場ヲ備ヘサルコトヲ得此場合ニ於特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備フヘキモノトス

テハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

ク市內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的ニ關セサル事件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セントスルトキハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘク市內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣

定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章　就學

第二十條　兒童滿六歲ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス
學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ敎科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムルノ義務アルモノトス
前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始メヨリ生スルモノトス
學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ハ文部大臣之ヲ規定ス
第二十一條　貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムヲ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘシ
市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認ムルトキハ學齡兒童若クハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ檢査ヲ行フコトヲ得
市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ檢査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
第二十二條　學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲ市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ敎科ヲ修メントスルトキハ其市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不良ノ行爲アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス
前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム
第二十四條　學齡兒童ノ就學及家庭敎育等ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四章　小學校ノ設置

第二十五條　市町村ニ於テ其市町村內ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置スル
町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視ス
第二十六條　市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數竝位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ
町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數竝位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
第二十七條　郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校

ノ校數竝位置ヲ定ムヘシ

第二十八條　郡長ハ一町村內ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ラスト認定スル場合又ハ一町村內ノ就學スヘキ學齡兒童ノ數一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルモ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲適度ノ通學路程內ニ於テ一尋常小學校ヲ構成スルニ足ルヘキ數ヲ得ルコト能ハスト認定スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數竝位置ヲ定ムヘシ

二　其町村ヲシテ其町村內ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムヘシ

郡長ハ町村ノ一部ニシテ前項ノ事情アルモノ道路ノ遠隔若クハ困難ナルカ爲其兒童ヲシテ其町村ノ尋常小學校ニ通學セシムルコト能ハサル事情アリト認定スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ

郡長ハ町村學校組合ニシテ前項ノ事情アリト認定スル場合ニ於テハ本條第一項第二ノ例ニ依ルヘシ

第二十九條　郡長ハ第二十七條及第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數竝位置ヲ定ムルトキモ亦同シ

郡長ハ第二十八條ニ依リ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ關係町村町村學校組合及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十條　府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市內ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ其他必要ノ事情アルトキハ町村內若クハ町村學校組合內ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分畫シテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲其使用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

一　町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ

二　町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ

三　町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部內ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ

其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアルト

本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ

本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條　郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得ストノ認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村ヲシテ尋常小學校ノ設置又ハ兒童敎育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

又ハ兒童敎育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條第二項若クハ第三項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得ストノ認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童敎育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶

郡長ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條　郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村內若クハ其一部內又ハ町村學校組合ノ一部內ノ就學スヘキ學

齡兒童ノ全部若クハ一部ノ敎育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條　町村ハ一町村限リノ負擔ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シ猶優等ナル尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ數町村學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數竝位置ハ其學校組合ヲ設クルノ協議ヲナスノ際併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條　前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解クコトヲ得ス

郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十五條　府縣知事ハ市內ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村內若クハ町村學校組合內ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童敎育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條　市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三十七條　町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十四條ヲ適用ス

第三十八條　第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十九條　第三十一條末項第三十三條第三十六條及第三十七條及第三十八條ニ揭クル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條　市町村ハ幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十九條ノ規程ヲ適用ス

第四十一條　私立ノ小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ノ設立ハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其廢止ハ之ヲ府縣知事ニ上申スヘシ

第四十二條　第四十條及第四十一條ノ學校等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五章　小學校ニ關スル府縣郡市町村ノ負擔及授業料

第四十三條　市町村立小學校ノ設置ニ關ル市町村及町村學校組合竝區ノ負擔ノ概目左ノ如シ

一　校舍校地校具體操場農業練習場ノ供給及支持

二　小學校教員ノ俸給旅費等

三　小學校ニ關スル諸費

第四十四條　市町村立小學校ニ就學スル兒童ヲ保護スヘキ者ハ授業料規則ニ依リ授業料ヲ納ムヘシ

授業料ハ市町村ニ屬スル收入トス

一家ノ兒童同時ニ數名就學スルトキハ授業料ヲ減スルコトヲ得

市町村長ハ兒童ヲ保護スヘキ者貧窮ナル場合ニ於テハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スヘシ

授業料ハ物品若クハ勞力ヲ以テ之ニ代フルヲ許スコトヲ得

授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十五條　郡長ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ學校組合內ノ某町村ヲシテ其數校中ノ一校若クハ若干校ノ設置ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

郡長ハ第二十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童敎育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合內某町村ヲシテ其委託ノ事ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

本條ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四十六條　郡長ニ於テ町村學校組合ノ資力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定シ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡ハ郡費ヲ以テ其學校組合若クハ町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ開キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十七條　郡長ニ於テ第二十七條ノ事情アルモ同條ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ郡ハ郡費ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條　府縣知事ニ於テ市ノ資力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其市ニ相當補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十九條　府縣知事ニ於テ郡ノ資力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十條　區長並其代理者及學務委員ニ於テ國ノ敎育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス但區長並其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條　郡視學ノ給料旅費退隱料等ハ郡ノ負擔トス其額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第五十二條　小學校敎員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ並小學校敎科用圖書審查委員及審查ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章　小學校長及敎員

第五十三條　小學校敎員中小學校ノ某敎科目ヲ敎授スル者ヲ專科敎員トシ其他ノ者ヲ本科敎員トス

小學校敎員中小學校ノ敎科目ヲ補助敎授シ又ハ一時敎授スル者ヲ准敎員トシ其他ノ者ヲ正敎員トス

第五十四條　小學校ノ敎員ハ小學校敎員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第五十五條　小學校敎員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

檢定ハ府縣ニ小學校敎員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但某種ノ小學校敎員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格敎員免許狀敎員候補者等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十六條　小學校長及敎員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十七條　市町村立小學校長及敎員ノ名稱及待遇法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十八條　市町村立小學校長及敎員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第五十九條　市町村立小學校ノ敎員ハ市町村長ニ於テ薦擧スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ府縣知事之ヲ任スルモノトス

府縣知事ハ前項ノ候補者適當ナラスト認ムルトキハ再ヒ薦擧ヲナサシメ猶適當ナラスト認ムルトキハ薦擧ニ依ラスシテ直チニ之ヲ任スヘシ

本條第一項ノ薦擧ハ敎員ノ缺員ヲ生シ又ハ新ニ其位置ヲ設ケタル日ヨリ二十八日以內ニ之ヲ施行シ第二項ノ薦擧ハ其薦擧ヲ命セラレタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ施行スヘシ若シ此期限內ニ施行セサルトキハ府縣知事

ハ薦擧ニ依ラスシテ直チニ之ヲ任スヘシ

市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ敎員中ニ就キテ之ヲ兼任スルモノトス

第六十條　市町村立小學校敎員ノ給料額及旅費額ノ標準竝給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍內ニ於テ敎員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

市町村立小學校敎員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其歩合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定ス其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許サヽルコトヲ得

第六十一條　小學校長及敎員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十二條　市町村立小學校敎員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十三條　小學校長及敎員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條　市町村立小學校長及敎員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ譴責罰俸免職免許狀褫奪トス

私立小學校長及敎員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ

免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以內ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

市町村立小學校長及敎員ノ懲戒處分ニ關スル規則竝私立小學校長及敎員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條　小學校敎員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラルヽモノトス

第七章　管理及監督

第六十六條　郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一待遇ヲ受クルモノトス

第六十七條　郡視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケテ郡內ノ敎育事務ヲ監督ス

第六十八條　府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡視學ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ一名ニ命シテ郡視學ノ名義ヲ以テ其職務ヲ行ハシム

第六十九條　郡視學ニ對スル懲戒處分ハ官吏懲戒例ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

第七十條　市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ敎育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ首席敎員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條　市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ市制第百二十四條町村制第百二十八條ヲ適用ス

第七十二條　市ハ敎育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

第七十三條　市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第七十四條　府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ敎育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條　市ハ敎育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ市立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス

第七十六條　府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ關スル國ノ敎育事務ニ就キ市長區長竝其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條　市ノ區長及其代理者竝第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一　市制第六十四條第五ノ規程ニ依リ市長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ市制第百二十四條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二　市制第百二十四條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第七十八條　第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者竝學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條　町村ハ敎育事務ノ爲町村制第六十五條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ町村立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分ノ一ニ下ルコトヲ得ス

委員中敎員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス

第八十條　町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ町村長ヲ補助執行セシムルコトヲ得

助ス

第八十一條　府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ敎育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條　町村ハ敎育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ町村內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ町村立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條　府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ町村長區長竝其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條　町村ノ區長及其代理者竝第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一　町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二　町村制第百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條　第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者竝學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八十六條　町村學校組合ハ數育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合內ノ區ニ學務委員ヲ置クヘシ

町村學校組合ハ數育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

本條ノ委員ニハ町村立小學校男數員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條　町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ關スル國ノ數育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス

府縣知事ハ町村學校組合內ノ區ノ學務委員ヲシテ區ニ屬スル國ノ數育事務ニ就キ組合長ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十八條　第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ數育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ左ノ例ニ依ル

一　町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ組合長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第百二十八條第二項第一ノ規程ヲ適用ス

二　町村制第百二十八條第一項及第二項第二第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條　第八十七條ノ事務執行ニ關スル組合長及學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第九十條　特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得

第九十一條　文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ戻ルモノアルトキハ府縣知事ニ命シテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十二條　前諸條ニ揭クル數育事務トハ專ラ小學校數育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ

第八章　附則

第九十三條　本令ハ市制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十四條　幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但尋常小學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス

第九十五條　本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校數員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正數員准數員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條　明治十九年四月勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○小學校令施行ニ關スル件　明治二十四年一月勅令第五號

朕小學校令ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ハ其全部施行シ難キ事狀アル地方

ニ限リ府縣知事ノ具狀ニ依リ文部大臣ノ指揮ヲ以テ其一部ヨリ漸次施行スルコトヲ得

○小學校令施行ニ際シ從來ノ市町村立小學校ヲ一時存續處分方

明治二十四年三月勅令第十九號

朕明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ニ際シ從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　從來ノ市町村立尋常小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ左ノ各款ニ依リ處分スヘシ

一　新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村尋常小學校ニシテ其位置新ニ指定セラレタル市町村尋常小學校ノ位置ト同一ナルモノハ之ヲ繼續維持スヘシ

二　新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ從來ノ市町村立尋常小學校ニシテ不用ニ屬スヘキモノハ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備新ニ整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

三　兒童敎育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第二款ノ例ニ依ルヘシ

四　新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレ及兒童敎育事務ヲ他ニ委託スヘキコトヲ命セラレタル町村ト從來ノ尋常小學校設置區域ト其性質前後同一ナル場合ニ於テハ第一款第二款ノ例ニ依ルヘシ

五　聯合町村ヨリ成立スル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其區域ノ學齡兒童敎育ノ事業ヲ引繼クヘキ市町村、町村學校組合又ハ市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ニ於テ學齡兒童ヲ就學セシムルノ準備整フノ時ニ及ヒ之ヲ廢スヘシ

第二條　市町村ニ於テ設置スル從來ノ高等小學校ハ其市町村ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ其市町村ニ於テ同令第三十六條ノ手續ヲ經タル上之ヲ繼續維持スルコトヲ得

第三條　聯合町村ヨリ成立スル高等小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル高等小學校設置區域ニ於テ設置スル高等小學校ハ其町村聯合會又ハ學區會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令

施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ尚六箇月以內之ヲ存續スルコトヲ得

第四條　第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル管理監督事務ハ從來ノ職員ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ擔任スヘシ

第五條　第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル費用及第四條ノ事務ニ係ル費用ハ從來ノ小學校設置區域ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第六條　第一條第五款及第三條ニ依リ一時存續シタル小學校ニ係ル事務引續方等ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定スルコトヲ得

第七條　本令ノ規程ニ依リ難キ場合ニ在テハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ經テ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○私立小學校代用規則

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第三十五條ニ基キ私立小學校代用ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

文部省令第一號

私立小學校代用規則

第一條　市ハ其區域內ニアル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

町村及町村學校組合ハ其區域內ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童敎育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概ヲ左ノ如シ

一　代用ノ期限

二　代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域

三　代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員

四　代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額

五　其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項

第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ

第三條　代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得

第四條　私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ敎育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス

第五條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一　小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セント

スルトキ

二　小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ

三　多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ

四　學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五　其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第六條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市參事會、町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一　小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ

二　其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第七條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一　小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校補習科ヲ設置廢止セントスルトキ

二　單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ

三　小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテ許可ヲ受ケントスルトキ

四　學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ

五　第二條第三ノ定員ニ滿タサル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サントスルトキ

六　其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第八條　代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定ス

第九條　代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村長若クハ町村組合長ノ處分ヲ請フコトヲ得

第十條　代用私立小學校設立者ハ第二條三ノ第定員ニ滿タサル限リハ正當ノ理由ナクシテ第二條第二ノ區域內ノ兒童ノ入學ヲ拒辭スルコトヲ得ス

代用私立小學校ノ入學上ニ關スル設立者ノ取計ニ就キテハ前條第二項ヲ適用ス

第十一條　監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定スルトキハ其代用ヲ解除セシムヘシ

第十二條　市町村及町村學校組合ハ其代用ヲ解除スルトキハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ監督官廳ノ處分ヲ請フコトヲ得

代用私立小學校設立者ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ市町村若クハ町村學校組合ト協議ノ上市内ニ在ル學校ニ就キテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得

本條ノ許可又ハ處分ヲ請フハ三箇月前ニ於テスヘシ但特別ノ事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十三條　代用私立小學校設立者ハ先ツ代用解除ノ許可ヲ經ルニアラサレハ其學校ヲ廢止スルコトヲ得ス

○小學校設備準則

明治二十四年四月文部省令第二號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十九條ニ基キ小學校設備準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校設備準則

第一條　校地ハ日當リ好ク且成ルヘク開豁乾爽ナルヲ要ス

校地ハ喧閙ニシテ授業ニ妨アル場所、危險ナル場所、道德上嫌忌スヘキ場所、停滯セル池水其他凡テ惡臭アリ若クハ衛生上ニ害アル蒸發氣ヲ生スル場所ニ接近スヘカラス

第二條　校舍ニハ

天皇陛下及
皇后陛下ノ　御影竝教育ニ關スル　勅語ノ謄本ヲ奉置スヘキ場所ヲ一定シ置クヲ要ス

第三條　校舍ハ成ルヘク平屋造ナルヲ要ス若シ二階造ナルトキハ成ルヘク幼年生ノ教室ヲ階下ニ置クヲ要ス

校舍ヲ新築スルニ方リテハ將來增加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リテ成ルヘク將來ノ增築ニ便宜ナル計畫ヲ爲シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クルヲ要ス

第四條　各教室ノ大サハ其內ニ入ルヘキ机竝坐席ノ數大サ及排置方ニ應シテ之ヲ定メ生徒四人ニ付凡一坪ヨリ小ナルヘカラス

各教室ハ一教員ノ同時ニ教授シ得ヘキ員數ノ生徒ヲ容ルヽヨリ大ナルヘカラス

第五條　校舍ハ生徒ノ帽、傘、雨衣、足駄ヲ置クヘキ場所ヲ備フルヲ要ス

校舍ハ成ルヘク講堂、物置等ヲ備フルヲ要ス

裁縫ノ科目ヲ設クル小學校ハ男女ヲ區別シテ教授セサル場合ニ於テハ該科目ノ爲成ルヘク特別ノ教室ヲ其校舍ニ備フルヲ要ス

手工又ハ工科ヲ設クル小學校ノ校舍ハ工作ノ實地練習ノ爲特別ノ教室ヲ備フルヲ要ス

大ナル小學校ノ制舍ハ圖書標本等ヲ置クカ爲成ルヘク特別ノ場所ヲ備フルヲ要ス

第六條　體操場ハ成ルヘク校舍ニ傍フテ備フルヲ要ス

第七條　農業練習場ハ成ルヘク校舍ニ遠サカラサルヲ要ス

第八條　校舍ニハ堀井戸又ハ水道等ニ依リテ飲料水ヲ供スルノ備アルヲ要ス

第九條　便所ハ校舍外ニ於テ男女ヲ區別シテ備フルヲ要ス

第十條　校舍ニ傍フテ成ルヘク學校長若クハ首席敎員ノ住居及菜園ヲ設クルヲ要ス

第十一條　校具ハ甲乙ノ二種トス

甲種ノ校具ハ專ラ敎授ノ用ニ充ツル器具トス尋常小學校ニ於テハ假名ノ掛圖、敎員用敎科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、地球儀、定木、兩脚規、指數器、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、席物指敎用具ヲ備フルヲ常例トシ高等小學校ニ於テハ敎員用敎科書、學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、萬國地圖、地球儀、定木、兩脚規、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、白墨、水入、博物標本、理化器械、圖畫ノ手本、圖畫用具、裁縫用具、樂器、體操器械ヲ備フルヲ常例トシ其他ハ學校所在府縣ノ地圖、日本地圖、學校ノ等位、學級ノ編制又ハ敎科目ノ種類ニ應シテ備フヘキモノトス

乙種ノ校具ハ國旗、門札、生徒用及敎員用ノ机及腰掛（腰掛ヲ用フル學校ニ限ル）、時計、諸帳簿、視箱並附屬品、紙、書籍硯、戶棚、日用品其他學校ニ備付クルヲ必要トスル物件ニシテ甲種ノ校具ニ屬セサルモノトス

第十二條　生徒用ノ机及腰掛ノ構造ハ生徒ノ衛生上ニ害ナカラシメ及生徒ノ監視上等ニ便利ナラシムルヲ要ス

第十三條　第二條ニ揭クル場所、校舍ノ內部外部ノ壁、校舍ノ床、階梯、出入口、廊下、屋根、敎室ノ天井、戶、梁、窓、便所、體操場、農業練習場、敎員住居及井戶ノ構造竝敎室天井ノ高サ、敎室ノ幅及長サノ制限、煖室、通風、採光ノ方法等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十四條　校具ノ構造排置等ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十五條　校舍、校地、校具等ノ掃除及保存ニ關スル必要ノ事項ニ就キテハ地方ノ情況ヲ斟酌シテ之ヲ規定スルヲ要ス

第十六條　設備規則中ノ條規ニシテ校舍ノ新築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ラシムヘキモノトス但猶豫スヘカラサル事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

○小學校正教員准敎員ノ別ヲ定ム　明治廿四年五月文部省令第三號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第九十五條ニ基キ正教員准教員ノ別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ本科准教員ノ女兒ノ教授ニ限ル

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理及歷史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字、算術、地理及歷史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノヲ除ク

二　明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學科ノ教員免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字、算術、地理及歷史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ

三　明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科ノ教科ヲ教授シ得ヘキモノ

四　明治十九年十二月文部省第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル小學師範學科卒業證書ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ高等師範學科卒業證書

五　明治二十二年十月文部省令第七號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシタル小學師範學科卒業證書

第二條　左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノヲ除ク

二　明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學科ノ教員免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三　明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科ノ教科ヲ教授シ得ヘキモノ

四　明治二十年八月文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科（博物、物理）ノ一科若ク

ハ數科ヲ敎授シ得ヘキモノ

第三條　左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校敎員ノ職ニ在ル者及第一條第四款若クハ第五款ニ揭ク卒業証書ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正敎科ノ專科正敎員若クハ專科准敎員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ敎授ニ限ル

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校敎員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ敎授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二　明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學科ノ敎員免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業、商業ノ一科若クハ數科ヲ敎授シ得ヘキモノ

三　明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科敎員タルコトヲ得但第三條第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ敎授ニ限ル

第四條　左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正敎科ノ專科准敎員タルコトヲ得

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校敎員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ敎授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正敎科ノ專科准敎員タルコトヲ得

二　第三條ニ揭ク免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ本科正敎員若クハ本科准敎員タルコトヲ得

第五條　左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校敎員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル授業生免許狀ヲ除ク

二　明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ敎授シ得ヘキモノ

三　明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ敎授シ得ヘキモノ

四　明治十九年十二月文部省令第二十三號ニ依リ小學校敎員免許狀ト同一

ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル初等、中等若クハ高等師範學科卒業證書

五　第一條第五款ニ掲クル卒業證書

第六條　左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ本科准教員タルコトヲ得

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二　明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三　明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科（博物物理）ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

四　明治二十年八月文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第七條　左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一條第五款若クハ第五條第四款ニ掲クル卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科正教員若クハ專科准教員タルコトヲ得

一　明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、手工ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル授業生免許狀ヲ除ク

二　明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三　明治十九年六月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、工業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

○小學校祝日大祭日儀式規程　明治二十四年六月文部省令第四號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十五條ニ基キ小學校ニ於ケル祝日大祭日ノ儀式ニ關スル規程ヲ設クルコト左ノ如シ

小學校祝日大祭日儀式規程

第一條　紀元節、天長節、元始祭、神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場ニ參集シテ左ノ儀式ヲ行フヘシ

一　學校長教員及生徒

天皇陛下及

皇后陛下ノ　御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ且

兩陛下ノ萬歳ヲ奉祝ス

但未タ　御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ本文前段ノ式ヲ省ク

二　學校長若クハ教員、教育ニ關スル　勅語ヲ奉讀ス

三　學校長若クハ教員、恭シク教育ニ關スル　勅語ニ基キ　聖意ノ在ル所ヲ演說ヲ爲シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養センコトヲ誨告シ又ハ

歷代天皇ノ　盛德　鴻業ヲ叙シ若クハ祝日大祭日ノ由來ヲ叙スル等其祝日大祭日ニ相應スル演說ヲ爲シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養センコトヲ務ム

四　學校長、教員及生徒、其祝日大祭日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス

第二條　孝明天皇祭、春季皇靈祭、神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第三款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第三條　一月一日ニ於テハ學校長、教員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第一款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第四條　第一條ニ揭クル祝日大祭日ニ於テハ便宜ニ從ヒ學校長及教員、生徒ヲ率ヰテ體操場ニ臨ミ若クハ野外ニ出テ遊戲體操ヲ行フ等生徒ノ心情ヲシテ快活ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第五條　市町村長其他學事ニ關係アル市町村吏員ハ成ルヘク祝日大祭日ノ儀式ニ列スヘシ

第六條　式場ノ都合ヲ計リ生徒ノ父母親戚及其他市町村住民ヲシテ祝日大祭日ノ儀式ヲ參觀スルコトヲ得セシムヘシ

第七條　祝日大祭日ニ於テ生徒ニ茶菓又ハ教育上ニ裨益アル繪畫等ヲ與フルハ妨ナシ

第八條　祝日大祭日ノ儀式ニ關スル次第等ハ府縣知事之ヲ規定スヘシ

○報告

○道廳府縣立諸學校ニ於テ外國人ヲ傭入傭繼及解傭ノトキハ報告セシム　明治二十三年八月　文部省訓令第六號

北海道廳　府縣

本年四月内閣訓令第四號ヲ以テ明治十六年太政官第三十二號達廢止相成候ニ付テハ自今道廳及府縣立諸學校傭外國人ノ儀ハ傭入傭繼解傭共其時々當省

ヘ報告スヘシ

○雜

○教育ニ關スル勅語及文部大臣ノ訓示　明治二十三年十月

文部省訓令第八號

北海道廳　府縣

今般教育ニ關シ勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其謄本ヲ頒チ本大臣ノ訓示ヲ發ス管内公私立學校ヘ各一通ヲ交付シ能ク聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

○文部省訓令

今般教育ニ關シ勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其謄本及本大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

直轄學校

別紙

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト倶ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

訓示

謹テ惟フニ我カ

天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ忝ク

勅語ヲ下タシタマフ顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ嚮フ所ヲ愆ランコトヲ恐ル今

勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス謹テ
勅語ノ謄本ヲ作リ普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意ヲ奉體シテ研磨薫陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ
勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

明治二十三年十月三十一日　　文部大臣芳川顯正

第十五類　衛生

○傳染病

○海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫施行方　明治二十四年六月勅令第六十五號

第一條　虎列剌病流行地方ニアラサルモ該病傳播ノ虞アリト認メ內務大臣ニ於テ特ニ指定シタル外國諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテハ檢疫官ヲシテ該病患者又ハ該病死者ノ有無ヲ尋問セシム

第二條　若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ（若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ）地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬ス可シ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乘組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷

ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第三條　第一條ノ尋問ヲ拒ミ又ハ第二條ニ違背シ其他本令ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ據テ處分セラル可シ

第四條　本令施行始終ノ期日竝ニ場所ハ其都度內務大臣之ヲ指定ス可シ

○藥品

○日本藥局方　明治二十四年五月　內務省第五號

明治十九年六月當省令第十號日本藥局方左ノ通改正シ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス（日本藥局方署之）

但前日本藥局所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ共効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ明記スヘシ

○藥劑師廢業又ハ死亡ノトキ地方廳ヘ屆出方　明治二十四年四月　內務省令第一號

明治二十四年四月內務省令第一號藥品營業竝藥品取扱規則第八條屆書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル屆出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者、相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財產ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

○コッホ結核病治療液使用取締方　明治二十四年五月內務省令第三號

コッホ結核病治療液（テユベルクリン）ハ官立府縣立病院ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得其他病院若クハ醫師ニシテ相當ノ準備アル病室ヲ有スル者之ヲ使用セントスルトキハ豫メ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ內務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ之ヲ認可シ若クハ認可セサルコトアルヘシ

該液ハ外來患者ニ使用スルコトヲ得ス

地方長官ハ該液ノ使用ニ關シ特ニ監督者ヲ派出シテ臨檢セシムルコトアルヘシ

該液ヲ使用シタル者ハ左ノ書式ニ依リ其使用終結ニ至リタル患者ノ治驗表ヲ製シ每月內務大臣ニ報告スヘシ

本令第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以內ノ罰金ニ處ス

年月日調

結核病治療液治驗表

第號　患者　病名　既往症及現在症　醫師　住所氏名　印　職業男女　何某年齡

注入ノ月日及其量	反應諸症	腫症	成績

既往ノ病歴注入前ノ現症及ヒ結核菌ノ有無ハ既往症及現在症ノ欄下ニ注入後ノ體温、呼吸、脈搏ノ狀況、惡寒、戰慄、頭痛、惡心、發疹、倦怠等ノ諸症ハ反應諸症ノ欄下ニ體量ノ增減及ヒ全治、輕快、無効死亡ハ成績ノ欄下ニ記スヘシ

○藥品及物品ノ衛生試驗所初回檢查ニ不服ノ者ハ再檢查ヲ請フヲ得　明治二十四年七月　内務省令第十號

衛生試驗所ニ於テ檢查シタル藥品其他ノ物品ニシテ初回ノ檢查ニ對シ不服アル者ハ再檢查ヲ請フコトヲ得再檢查ノ手數料ハ初回檢查手數料ノ三倍ヲ前納スヘシ

○醫業

○獸醫免許規則　明治二十三年八月　法律第七十六號

獸醫免許規則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條　獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一　獸醫免許試驗ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者

一　官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一　公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一　外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

第三條　第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條　獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條　獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條　獸醫免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手數料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

第七條　獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受クル者ハ免狀下付ノトキ手數料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第八條　獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍內ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以內ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條　第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條　免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依賴ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條　獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附　則

第十四條　獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ內北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條　第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條　明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

○獸醫免許試驗規則

明治二十三年八月法律第七十六號第十三條ニ據リ獸醫免許試驗規則左ノ通之ヲ定ム

明治二十三年九月
農商務省令第十一號

獸醫免許試驗規則

第一條　試驗ノ科目ハ左ノ如シ

一　家畜解剖學

一　同　生理學

一　同　藥物學
一　同　內科學及其ノ實地
一　同　外科學及其ノ實地

第二條　試驗法ハ筆記及實地ノ二樣トシ實地試驗ハ筆記試驗ヲ終ハリタル後之ヲ行フ但時宜ニ依リ口述試驗ヲ以テ實地ニ代フルコトアルヘシ

第三條　試驗ハ每年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二日告示スヘシ

第四條　農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選定シテ試驗ヲ行ハシム

第五條　試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受驗地名ヲ願書ニ記載シ修學履歷書ヲ添ヘ一月若クハ七月中其ノ居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條　受驗者ハ試驗期日三日前受驗地ノ宿所ヲ其ノ地方廳ニ屆出ヘシ

第七條　試驗及第者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ

第八條　不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス

附　則

第九條　第十回獸醫免許試驗ニ限リ家畜ノ解剖學、生理學、藥物學、內科學、外科學ニ就キ筆記試驗ヲ行フ

○獸醫假免許手續　明治二十三年九月　農商務省訓令第四十四號

明治二十三年八月法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ノ獸醫假免許手續左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ

但明治十九年十二月當省訓令第二十一號假開業獸醫免許手續ハ廢止ス

獸醫假免許手續

第一條　獸醫假免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一　營業區域ノ廣袤及地勢ノ嶮夷
一　區域內牛馬ノ頭數
一　營業年限

第二條　獸醫假免許區域內ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免許ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許年限中ト雖假免狀ヲ返納セシムルコトヲ得

第三條　獸醫假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○獸醫蹄鐵工、各免許規則ニ依リ學則認可請求方　明治二十三年十一月　農商務省令第十八號

本年八月法律第七十六號獸醫免許規則第二條第三項及同年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則ノ認可ヲ請ハント欲スルトキハ左

ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ記入シ教員ノ族籍氏名年齢及履歴ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ其ノ校長又ハ校主名ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校主ハ其ノ學校ノ卒業試驗結了ノ後十五日以内ニ地方廳ヲ經由シ卒業者ノ族籍氏名年齢及最終學期ノ試驗成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一　教員ノ員數及資格

一　獸醫學校教員ハ三名以上トシ内少クモ一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一　蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ内一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二　學科目

一　獸醫學校學科

動植物學及理化學
病理學通論
産科學
動物論及警察法

解剖學及其ノ實習
生理學
藥物學
內科學
外科學

一　蹄鐵學校學科

撰鐵、鍛錬、造蹄鐵及造鐵釘法實習
蹄鐵學及其ノ實習

三　修學年限

一　獸醫學校滿三年以上

病體解剖學及其ノ實習
家畜飼養法蕃殖法及衛生論
蹄鐵及其ノ實習
治療法實習

蹄ノ解剖、生理及病理論
家畜衛生論

一　蹄鐵學校滿一年以上

第十六類　警察

○行政警察

○銀行會社等ノ請願ニ依リ配置スル巡査充用及費用徵收竝ニ支出方

明治二十三年十月
內務省訓令第三十八號
警視廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十四年內務省乙第二十二號達銀行又ハ諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡査ハ地方稅支辨ニ屬スル巡査ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經其額ヲ定メテ徵收シ地方稅雜收入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

○言論集會結社

○內務大臣ハ特ニ命令ヲ發シ新聞紙雜誌文書圖畫ニ外交上ニ係ル事件ヲ揭載スル者ヲシテ草案ヲ提出セシメ撿閱シテ記載ヲ禁スルヲ得

明治四年五月勅令第四十六號

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ

新聞紙雜誌又ハ文書圖畫ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

內務大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ新聞紙雜誌又ハ文書圖畫ニ外交上ニ係ル事件ヲ記載スル者ヲシテ豫メ其草案ヲ提出セシメ之ヲ檢閱シテ其記載ヲ禁スルコトヲ得之ヲ犯ストキハ發行人編輯人又ハ發行著作者ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

內務大臣ノ檢閱ヲ經タル事項ヲ轉載スルハ前項ノ限ニアラス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○鳥獸獵取締

○北海道廳外二縣御料地內ニテ有害ノ鳥獸ヲ除クタメ掛官吏ニ銃獵許可

明治二十三年八月農商務省訓令第四十三號

北海道廳三重縣宮崎縣

北海道廳管下御料局札幌支廳三重縣下同度會事務所宮崎縣下同諸縣事務所々轄御料地內ニ限リ宮內省掛官吏ニ鑑札ヲ渡置キ巡視ノ際猛獸ノ害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除ク爲メ九月一日ヨリ右銃獵ヲ差許セリ

但鑑札雛形ハ本年三月本省訓令第十九號ノ通リ

○御料地ニ編入セル兵庫縣官林ノ掛官吏ニ有害ノ鳥獸銃獵許可

明治二十四年二月農商務省訓令第一號

其縣下官林ノ內今般生野鑛山備林ト シテ御料地ヘ編入相成タルニ付宮內省ニ於テハ右掛官吏ニ鑑札ヲ渡置キ巡視ノ際有害ノ鳥獸ヲ除ク爲メ該御料地內ニ限リ銃獵ヲ許シ來三月一日ヨリ實施スル筈ニ付此旨心得ヘシ

但鑑札雛形ハ明治二十三年三月本省訓令第十九號ノ通リ

○農作物保護ノ爲有益ナル鳥類獵獲禁止方

明治二十四年六月農商務省訓令第二十六號

警視廳　北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

近年銃獵者ノ數ヲ增シ加フルニ剝製鳥類輸出ノ途開ケシヨリ鳥類濫獲ノ弊ヲ生シ農作物保護ノ爲有益ナル鳥類ノ殄滅ヲ致スノ虞アルニ依リ土地ノ實況ニ隨ヒ獵獲禁止ノ必要アルモノハ其名稱及性質效用等ヲ併記シ本大臣ヘ經伺ノ上其獵獲ヲ禁止スヘシ

第十七類　兵制

○徴發

○徴發事務條例中改正　明治二十三年九月勅令第百九十六號

徴發事務條例ハ法令類纂第二巻百九十二丁ニ載ス

徴發事務條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

徴發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

徴發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徴發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得

第二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

鐵道局長及鐵道會社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若ノハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十四條

北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十五條

北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修覆場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ每年三月三十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號一二ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ每年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管內ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ノ雛形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送付セシムルコトヲ得

第三十九條

徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區內ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條

徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ（別表略之）

○徵發事務條例中徵發物件表取調送付方　明治二十三年九月陸軍省訓令甲第十五號訓

道廳　府縣

今般勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例第二十四條改正ニ依リ三年毎ニ徵發物件表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ陸軍省ニ送附スルハ本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トシ自後之ニ準スル儀ト心得ヘシ

但條例第二十一條ニ依リ郡區長ニ於テ製表ノ儀モ每年調製ヲ要セス本文同樣ノ儀ト心得ヘシ

○徵兵

○北海道徵兵令未行地ニ轉籍スル陸軍豫備後備下士兵卒ハ勤務演習簡閱點呼ニ召集セス　明治

二十三年十月陸軍省令第二十九號

陸軍豫備後備下士兵卒ニシテ北海道徴兵令未行地ニ轉籍スル者ハ當分勤務演習及簡閲點呼ニ召集セス但明治十四年九月陸軍省達甲第二十二號達ヲ廢止ス

○海軍志願兵徴募規則中改正加除

明治二十三年二月勅令第二十九十四號

海軍志願兵徴募規則中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

海軍志願兵徴募規則中左ノ通改正ス

第二條及第三條第一項中水兵ノ下ニ「信號兵」ヲ加フ

第十一條別表左ノ通改メ第十二條第二項ヲ削除ス

第二	吳鎮守府	京都	大阪	兵庫	奈良	滋賀	福井	石川	富山
第三	佐世保鎮府守	長崎	福岡	大分	佐賀	熊本	宮崎	鹿兒島	
		鳥取	島根	岡山	廣島	山口	和歌山	德島	香川
		愛媛	高知						

海軍志願兵徴募規則ハ法令類纂第二卷二百七十七丁ニ載ス

○現役兵ヲ徴集シ又ハ豫備徴員ヨリ現徴兵ニ繰上ケタルキ其戸籍寫送付方

明治廿四年二月陸軍省訓令甲第一號

北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

毎年現役兵トシテ徴集シ又ハ豫備徴員ヨリ現役兵ニ繰上タル者アルトキハ島司又ハ郡市長ヨリ各自ノ戸籍寫ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送附セシム可シ

○徴兵事務條例施行細則附錄樣式中記入方

明治二十四年二月陸軍省訓令甲第二號

北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治二十二年二月陸軍省令第一號徴兵事務條例施行細則附錄第一號樣式壯丁名簿中ノ妻子ハ當分記入セシムルニ及ハス

○徴兵令第廿七條ニ依リ徴集スヘキ者處分方

明治二十四年四月陸軍省令第五號

徴兵令第二十七條ニ依リ徴集スヘキ者ハ徴兵檢查ノ際更ニ身體檢查ヲ爲シ徴集ニ適スル者ノミ其年ノ新兵所要人員ニ加ヘ入營セシム但徴集ニ適セサル者（免役ニ屬スル者ヲ除ク）ハ尙ホ次年同一ノ處分ヲ爲スモノトス

○服役補充

○陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例明治廿三年八月勅令第百七十三號

陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例

第一條　砲兵監護ノ補充ハ現役砲兵鞍工銃工木工鍛工鑄工長ニシテ實役停年二年以上ノ者若クハ監護志願者ニシテ砲兵方面附トナリタル再服役以上ノ砲兵曹長火工曹長ヲ以テス

火工二等軍曹ノ補充ハ砲兵上等兵ニシテ陸軍砲兵工科學舍學生トナリ卒業ノ者ヲ以テス

砲兵請工長下ノ補充ハ陸軍砲兵工科學舍生徒ニシテ卒業ノ者ヲ以テス

第二條　砲兵諸工長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ隊長若クハ直屬長官ノ所要ヲ量リ第一條一項ニ該當スル者ヲ撰拔シ砲兵監護候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ近衞都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ呈シ同官ノ認可ヲ經テ缺員アル毎ニ之ヲ砲兵監護ニ任ス

砲兵曹長火工曹長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ砲兵方面提理陸軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ砲兵監護ニ任ス

第三條　陸軍砲兵工科學舍卒業ノ砲兵上等兵ヲ火工二等軍曹ニ任スルニハ學舍長卒業試驗成績表ヲ東京砲兵工廠提理ニ呈シ提理ハ其人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ同大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ火工二等軍曹ニ任ス

第四條　陸軍砲兵工科學舍長卒業生徒ヲ工下長ニ任スルニハ學舍卒業試驗成績表ヲ東京砲兵工廠提理ニ呈シ提理ハ其人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ經テ之ヲ工下長ニ任シ同大臣ノ告達ニ基キ各部隊ニ配付ス

第五條　砲兵監護ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス監護ニ任セラレタル日ヨリ更ニ四年間現役ニ服セシム（砲兵工科學舍生徒ノ內一般人民ヨリ採用シタル者及教導團卒業ノ者ハ初任ノ日ヨリ起算）

其現役ヲ離ルヽトキハ入隊ノ日ヨリ起算シ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第六條　火工二等軍曹ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ラス陸軍砲兵工科學舍卒業ノ上原隊ニ復歸シ更ニ三年間（卒業ノ日ヨリ起算ス）現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルヽトキ前役ヲ通算シ七年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第七條　諸工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス任官ノ日ヨリ七年間現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルヽトキハ入隊ノ日（一般人民ヨリ採用シタル者ハ初任ノ日）ヨリ起算シ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

大臣ニ呈シ同大臣ノ認可ヲ請ケ近衞都督師團長ヲ經テ聯隊長ニ移ス聯隊長ハ該隊ニ缺員アル毎ニ之ヲ火工二等軍曹ニ任ス

第四條　陸軍砲兵工科學舍長卒業生徒ヲ工下長ニ任スルニハ學舍卒業試驗成績表ヲ東京砲兵工廠提理ニ呈シ提理ハ其人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ經テ之ヲ工下長ニ任シ同大臣ノ告達ニ基キ各部隊ニ配付ス

第五條　砲兵監護ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス監護ニ任セラレタル日ヨリ更ニ四年間現役ニ服セシム（砲兵工科學舍生徒ノ內一般人民ヨリ採用シタル者及教導團卒業ノ者ハ初任ノ日ヨリ起算）

其現役ヲ離ルヽトキハ入隊ノ日ヨリ起算シ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第六條　火工二等軍曹ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ラス陸軍砲兵工科學舍卒業ノ上原隊ニ復歸シ更ニ三年間（卒業ノ日ヨリ起算ス）現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルヽトキ前役ヲ通算シ七年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第七條　諸工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス任官ノ日ヨリ七年間現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルヽトキハ入隊ノ日（一般人民ヨリ採用シタル者ハ初任ノ日）ヨリ起算シ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第八條　各兵科現役下士補充條例第二項及第八條第九條第十二條第十三條ハ本條例ニ適用ス

○陸軍砲臺監守補充條例　明治廿三年八月勅令第百七十四號

朕陸軍砲臺監守補充條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲臺監守補充條例

第一條　砲臺監守ノ補充ハ現役砲工兵科曹長同一等軍曹中志願者ニシテ其入隊ノ日（教導團ヲ卒業シテ下士ニ任シタル者ハ其任官ノ日）ヨリ起算シ七箇年以上隊附勤務ニ服シ品行方正勤務勉勵ナル者ヲ以テス

第二條　砲臺監守ノ補充ヲ要スルトキハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第三條　志願者アルトキハ隊長若クハ直屬長官ハ志願者中第一條ニ適當スル者ヲ撰ヒ其人名書ニ考科表ヲ添ヘ順序ヲ經テ近衞都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ呈シ同官ハ之ヲ審査シテ陸軍大臣ニ呈ス

第四條　陸軍大臣ハ前條人名書ヲ軍務局長ニ下シ同局長ハ志願者ノ各官等中ニ於テ其服役實期ト考科表トヲ參照シ砲臺監守候補名簿ヲ製シ之ヲ陸軍大臣ニ呈ス

陸軍大臣ハ候補者ヲ決定シ之ヲ軍務局長ニ下シ同局長ハ之ヲ軍務局工兵事務課長ニ下シ同課長ハ缺員アル毎ニ該名簿ノ列序ニ從ヒ之ヲ砲臺監守ニ任ス

陸軍現役縫工長靴工長補充條例ハ法令類纂第三卷第十七類五十丁ニ載ス

第五條　砲臺監守ノ服役年限ハ砲臺監守ニ任セラレタル日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服セシム

第六條　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス但入隊ノ日（教導團ヲ卒業シテ下士ニ任シタル者ハ其任官ノ日）ヨリ起算シ十二箇年ニ滿タサルトキハ前兵科ノ曹長ニ復任シ後備役ニ編入ス

第七條　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第八條　第六條第七條ニ當ルモノアルトキハ工兵方面提理ハ陸軍大臣ニ具申シ認可ヲ得テ現役若クハ兵役ヲ免ス

第九條　服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延スコトアルヘシ

○陸軍現役縫工長靴工長補充條例中改正　明治廿三年八月勅令第百七十八號

陸軍現役縫工長靴工長補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍現役縫工長靴工長補充條例中「二等工長」トアルヲ工下長ト改ム

○陸軍各兵科現役士官補充條例中改正　明治二十三年八月勅令第百八十四號

陸軍各兵科現役下士補充條例ハ法令類纂第二卷二百九十七丁ニ載ス

朕陸軍各兵科現役士官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍各兵科現役士官補充條例中左ノ通改正ス

第一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但屯田各兵科士官ノ補充ハ他ノ同兵科士官ヲ以テシ輜重兵科士官ノ補充ハ他兵科士官ヨリ轉科セシメ憲兵科士官ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十五條　屯田歩兵科ノ士官ハ當分札幌農學校兵學科ヲ卒業シタル者ニシテ見習士官ヲ命シ六箇月以上隊務ニ服シタル者ヲ以テ補充スルコトヲ得

見習士官ノ取扱竝士官ニ任用ノ手續等ハ第二十三條乃至第二十八條及第三十二條ノ例ニ準ス但第二十八條及第三十二條ノ書類ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ其第三十二條ニ當ル者ハ陸軍大臣ニ於テ見習士官ヲ免ス

○陸軍各兵科現役下士補充條例中改正ノ件

勅令第百八十五號

朕陸軍各兵科現役下士補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍各兵科現役下士補充條例中左ノ通改正ス

第一條但書中「屯田兵」ノ三字ヲ削リ及左ノ一項ヲ加フ

屯田各兵科下士ノ補充ハ他ノ同兵科ノ現役下士ヲ以テシ又屯田兵上等兵ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シタル者及近衛各師團ノ豫備後備下士上等兵ニシテ屯田兵ト爲リタル者ヲ以テス

第三條中「十二月一日」ノ下ニ「（屯田兵ニ在テハ四月一日）」ノ割註及左ノ一項ヲ加フ

近衛及各師團ノ豫備後備下士上等兵ニシテ屯田兵ト爲リタル者ハ入隊後二箇月以內中隊長前項ノ例ニ依リ下士候補名簿ヲ製シ大隊長ニ呈ス可シ

第五條中「ニ呈シ」ノ上ニ「屯田兵司令官」ノ六字ヲ加フ

○陸軍豫備後備將校補充條例中改正ノ件

第百八十六號

朕陸軍豫備後備將校補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備將校補充條例中左ノ通改正ス

第一條第二項中左ノ一項ヲ追加ス

屯田兵ニ在テハ前項ノ外屯田兵豫備下士ニシテ本隊（歩兵ニ在テハ札幌農學校）ニ於テ一箇年間軍事學ヲ修メ終末試驗及第證書ヲ所持スル者

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第九條　第一條末項ニ揭クル軍事學終末試驗及第證書ヲ所持スル者ヲ豫備士官ト爲スニハ屯田兵司令官其成績ヲ詳悉シ之ニ考科表ヲ添ヘ陸軍大臣ニ

陸軍豫備後備將校補充條例ハ法令類纂第二卷二百八十四丁ニ載ス

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例ハ法令類纂第二卷二百八十八丁ニ載ス

陸軍現役下士上等兵再服役條例ハ法令類纂第二卷三百五丁ニ載ス

進達ス

第九條ヲ第十條トシ同條「第二」ノ下ニ「及末項」ノ三字ヲ加ヘ以下繰下ク

○陸軍各兵科豫備後備下士補充條例中改正　明治二十三年八月勅令第百八十七號

豫陸軍各兵科豫備後備下士補充條例中左ノ通改正ス

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條割註ノ中「屯田兵」ノ三字ヲ削ル

第二條左ノ一項ヲ加フ

屯田各兵科ニ在テハ歩兵ハ現役滿期ノ際各中隊ニ四名以上騎砲工兵ハ毎年各中隊ニ一名以上トス

第三條第二項中「ニ具狀」ノ上ニ「屯田兵司令官」ノ六字ヲ加フ

○陸軍現役下士上等兵再服役條例中改正　明治二十三年八月勅令第百八十八號

豫陸軍現役下士上等兵再服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍現役下士上等兵再服役條例中左ノ通改正ス

第一條中「及屯田兵」ノ四字及第二條ヲ削ル

第九條左ノ如ク改ム

第九條　第七條第八條ニ當ルモノアルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官（軍吏部衛生部ニ在テハ會計ノ認可ヲ請ヒ再服役ヲ停止シ若クハ兵役ヲ免ス但近局長又ハ醫務局長以下同シ）

衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自カラ之ヲ處分ス

○陸軍豫備後備將校服役條例中改正　明治二十三年八月勅令第百八十九號

豫陸軍豫備後備將校服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備將校服役條例中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

北海道徴兵令未行地在籍ノ豫備後備將校ハ北海道ノ兵籍ニ編入シ屯田兵司令官ノ管轄ニ屬ス

第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下繰下ク

第十八條　本條例中師團長トアルハ北海道ニ在テハ屯田兵司令官トシ又師管トアルハ北海道ニ在テハ徴兵令未行地トス

陸軍豫備後備將校服役條例ハ法令類纂第三卷第十七類十六丁ニ載ス

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例ハ法令類纂第三卷第十七類二十丁ニ載ス

○陸軍豫備後備下士兵卒服役條例中改正　明治二十三年八月勅令第百九十號

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

北海道徴兵令未行地在籍ノ豫備後備下士兵卒ハ屯田兵司令官ノ管轄ニ屬ス

第十九條左ノ如ク改ム

第十九條　本條例中大隊區司令官トアルハ北海道徴兵令未行地ニ在テハ屯田兵司令官警備隊區司令官トシ監視區長トアルトキハ警備隊區司令官トシ監視區トアルトキハ北海道徴兵令未行地ニ在テハ屯田兵副官警備隊區ニ在テハ警備隊區副官トス

師管旅管監視區トアルハ北海道ニ在テハ徴兵令未行地トシ又監視區トアルハ警備隊區ニ在テハ其區トス

○屯田兵下士中服役及給與ニ關スル件　明治二十三年九月勅令第二百二十一號

屯田兵下士中服役及給與ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

近衛及師團ノ諸隊竝陸軍官廨ヨリ轉シタル屯田各兵科下士ニシテ一箇年以上其職ヲ奉シタル者ハ更ニ願ニ由リ屯田兵條例ニ依リ服役スルコトヲ得其諸給與ハ屯田兵トシテ移住スル者及屯田兵出身ノ下士ニ同シ

○陸軍蹄鐵工下工長補充條例　明治二十三年十月勅令第二百三十一號

陸軍蹄鐵工下工長補充條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍蹄鐵工下長補充條例

第一條　騎兵砲兵輜重兵ノ蹄鐵工下長ニ缺員アル毎ニ之ヲ補充スルニハ騎兵隊野戰砲兵隊輜重兵隊ノ蹄鐵工卒ニシテ陸軍蹄鐵學舍卒業ノ者ヲ以テス

第二條　前條ノ蹄鐵工卒ヲ蹄鐵工下長ニ任スルニハ陸軍省軍務局馬政課長ハ陸軍蹄鐵學舍卒業試驗成績表ヲ軍務局長ニ呈シ軍務局ハ其人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ請ケ近衛都督師團長ヲ經テ聯隊長ニ移シ聯隊長ハ該隊ニ缺員アル毎ニ之ヲ任ス

第三條　蹄鐵工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ陸軍蹄鐵學舍條例第十四條ニ同シ

第四條　各兵科現役下士補充條例第二條第二項及第八條第九條第十條第十二條第十三條ハ本條例ニ適用ス

○陸軍獸醫部現役士官補充條例中改正加除　明治二十

陸軍獸醫部現役士官補充條例ハ法令類纂第三卷第十七類五十一丁ニ收ス

四年三月勅令第二十號

朕陸軍獸醫部現役士官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陸軍獸醫部現役士官補充條例中左ノ通改正ス

第一條二項中「東京農林學校豫科二年生以上或ハ獸醫學部本科」トアルヲ「帝國大學農科大學獸醫學科」ニ改メ「本科」ノ二字ヲ削リ其他各條中「總務局」トアルヲ「軍務局長」ト「軍務局」ニ「總務局長」トアルヲ「軍務局」ニ「東京農林學校」又ハ「農林學校」トアルヲ總テ「帝國大學農科大學」ニ「該校」トアルヲ「帝國大學」ニ「東京農林學校獸醫學部本科」トアルヲ「帝國大學農科大學獸醫學科」ニ「東京農林學校長」又ハ「該校長」トアルヲ總テ「帝國大學總長」ニ「東京農林學校學生及生徒」トアルヲ「帝國大學農科大學獸醫學科學生」ニ改ム

附則

第二十條　元駒場學校獸醫學科卒業生、元東京農林學校獸醫學本科卒業生、帝國大學農科大學獸醫學科准卒業生ハ帝國大學農科大學獸醫學科卒業生ニ準ス

○陸軍衛生部現役士官補充條例中改正追加（明治二十四年四月勅令第三十八號）

陸軍衛生部現役士官補充條例中左ノ通改正ス

第一條

二　一年志願兵中醫科大學若クハ高等中學校醫學部卒業證書ト醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀トヲ所持シ又ハ其他醫術卒業證書若クハ藥學卒業證書ニ依リ附與セラレタル醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀ヲ所持シ入隊後六箇月以上軍事上ノ教育ヲ受ケタル者ニシテ志願ニ依リ醫官候補生或ハ藥劑官候補生ヲ命セラレ三箇月以上衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシメ衛生部士官選擧會議ニ於テ可決シタル者

第七條中「高等中學校長」ノ下ニ「又ハ其他ノ學校長」ノ八字ヲ加フ

○豫備兵後備兵

○明治二十一年省令第六號海軍（豫備後備兵身上ノ異動願屆及取扱方）中追加（明治二十三年九月海軍省令第十五號）

明治二十一年五月海軍省令第六號各項中「鎮守府」ノ下ニ海兵團ノ三字ヲ加フ

○召集

○明法二十三年省令第二號（陸軍豫備兵定時演

陸軍衛生部現役士官補充條例ハ法令類纂第二卷三百二丁ニ收ス

明治二十一年省令第六號ハ法令類纂第二卷三百十九丁ニ收ス

明治二十三年省令第二號ハ法令類纂第三卷第十七類四十丁ニ載ス

習召集方）中加除 明治二十四年三月 陸軍省令第二號

明治二十三年一月陸軍省令第二號中「第四年ノ者」ノ下ニ「野戰砲兵ニ在テハ第三年ノ者」ノ割註ヲ加フ「但」ノ下「工兵電信通信術及建築術卒業證書ヲ所持スル者及」ノ二十三字ヲ削ル

○陸軍豫備後備將校補充條例第二條ニ依リ勤務演習施行ノトキ召集方 明治二十四年四月 陸軍省令第六號

陸軍豫備後備將校補充條例第二條ニ依リ一年志願兵終末試驗及第證書ヲ所持スル者ノ勤務演習ヲ行フトキハ近衛都督又ハ師團長ヨリ本人居住地所管ノ旅團長大隊區司令官及監視區長ヲ經テ召集ヲ命ス可シ但陸軍召集條例第五樣式ノ演習令狀ヲ用フルモノトス

二　召集ノ命ヲ受ケタル者ハ監視區長ノ所在ニ就キ旅費ヲ受領シ令狀ニ示ス所ノ期日迄ニ召集地ニ到着シ隊長ニ屆出可シ

三　疾病其他ノ事故ニ由リ召集ニ應シ難キ者ハ證明書ヲ添ヘ大隊區令官及旅團長ヲ經テ近衛都督又ハ師團長ニ屆出可シ

四　近衛ニ召集ノ者ト雖モ近衛兵集合地ニ參集スルニ及ハス直ニ召集地ニ到ル可シ

五　召集中ハ總テ在營セシメ豫備後備將校補充條例第二條但書ニ當ル者ハ該隊ヨリ通勤セシムルモノトス

六　召集中食餌被服等ノ支給方ハ陸軍給與令ニ依ル

○進級

○海軍下士任用進級條例中改正 明治廿四年三月 勅令第三十一號

脫海軍下士任用進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍下士任用進級條例中左ノ通改正ス

第一條

一　三等兵曹ハ砲術練習艦若クハ水雷術練習艦卒業ノ一等水兵若クハ兵曹適任證書ヲ有スル一等水兵又ハ學術檢查ニ合格シタル一等水兵ヨリ任用シ三等信號手ハ信號卒業證書ヲ有スル一等信號兵又ハ學術檢查ニ合格シタル一等信號兵ヨリ任用ス

○海軍高等武官進級條例中改正 明治廿三年八月 勅令第百六十六號

脫海軍高等武官進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十一條中「刑罰」ヲ「處刑」ニ改ム

海軍士下任用進級條例ハ法令類纂第三卷第十七類六十丁ニ載ス

海軍高等武官進級條例ハ法令類纂第二卷三百六十七丁ニ載ス

第十四條中「停年」ヲ「敍任」ニ改ム
第十八條中「進級」ノ下「及大佐ノ少將ニ進ム」ノ九字ヲ加フ

○生徒

○志願軍吏生志願獸醫生ヲ陸軍軍吏部竝獸醫部豫備士官ニ補任ノ件

明治廿三年九月
勅令第百九十五號

陸軍軍吏部竝獸醫部豫備士官ニ補任スルノ件ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一志願軍吏生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試驗ニ及第シタル者ハ當該監督部長本人所屬隊ノ軍吏ヨリ其勤務勉勵品行方正學術適當ノ者ニシテ軍吏部士官タルヲ得ヘキ保證書ヲ出サシメ且自ラ是認シタル後其意見書ヲ添ヘ三等軍吏ニ補任ノコトヲ會計局長ニ稟申ス會計局長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ進達ス若シ監督部長之ヲ否認シタルトキハ其事由ヲ悉シ會計局長ニ稟申シ會計局長ハ更ニ理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

二志願獸醫生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試驗ニ及第シタル者ヲ獸醫部豫備士官ニ補任スルハ陸軍獸醫部現役士官補充條例第十五條ニ依ル但シ獸醫部士官タルノ資格ナシト認ムルモノハ獸醫長ヨリ其事由ヲ具シテ軍務局獸醫課長ニ呈シ獸醫課長ハ之ヲ審査シテ軍務局長ニ上申シ軍務局長ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ蹄鐵工長ニ任シ豫備役ニ編入ス

○軍隊

○陸軍定員令

明治廿三年十一月
勅令第二百六十七號

陸軍定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍定員令

第一條　本令ハ治平ノ日ニ於ケル現役軍人及馬匹ノ數竝在職文官ノ人員ヲ規定スルモノトス

陸軍省及千住製絨所ノ職員休職停職ノ軍人一年志願兵及六週間現役兵ハ本令定員ノ外トス

第二條　常備軍隊ハ左ノ如シ

其一　歩兵

近衞歩兵　四聯隊
師團歩兵　二十四聯隊

其二　騎兵　近衛騎兵　一大隊
師團騎兵　六大隊

其三　砲兵　甲　野戰砲兵　近衛砲兵　一聯隊
師團砲兵　六聯隊
乙　要塞砲兵　四聯隊

其四　工兵　近衛工兵　一大隊
師團工兵　六大隊

其五　輜重兵　近衛輜重兵　一大隊
師團輜重兵　六大隊

其六　軍樂隊　近衛軍樂隊　一隊
師團軍樂隊　一隊

其七　島嶼警備隊　一隊

對馬警備隊　一隊

步兵一聯隊ハ本部竝三大隊ヲ以テ編成シ其一大隊ハ本部竝四中隊トス（附表第一號甲）

但近衛步兵聯隊ハ二大隊トス（附表第一號乙）

騎兵一大隊ハ本部竝三中隊ヲ以テ編成ス（附表第二號）

野戰砲兵一聯隊ハ本部竝野砲兵二大隊及山砲兵一大隊ヲ以テ編成シ其一大隊ハ本部竝二中隊トス（附表第三號甲）

但近衛砲兵聯隊ハ野砲兵二大隊トス（附表第三號乙）

要塞砲兵一聯隊ハ本部竝三大隊ヲ以テ編成シ其一大隊ハ本部竝四中隊トス（附表第三號丙）

但各地要塞ノ砲數ニ應シ大隊數或ハ中隊數ヲ增減スルコトアルヘシ

工兵一大隊ハ本部竝三中隊ヲ以テ編成ス（附表第四號甲）

但近衛工兵大隊ハ二中隊トス（附表第四號乙）

輜重兵一大隊ハ本部竝二中隊ヲ以テ編成シ之ニ輜重廠ヲ屬ス（附表第五號甲乙丙）

軍樂隊ノ編成附表第六號ノ如シ

對馬警備隊ハ司令部竝步兵砲兵各一隊ヲ以テ編成ス（附表第七號）

第三條　屯田兵ハ左ノ如シ

其一　歩兵　四大隊
其二　騎兵　一隊
其三　砲兵　一隊
其四　工兵　一隊

歩兵ハ一大隊ハ本部竝ニ中隊乃至六中隊（現役及豫備役）ヲ以テ編成シ騎兵砲兵及工兵隊ハ現役及豫備役ヲ以テ編成ス但豫備役歩兵中隊士官ハ現役トス（附表第八號甲乙丙丁）

第四條　憲兵隊ハ六隊トス其一隊ハ本部及數箇ノ分隊ヲ以テ編成ス（附表第九號）

第五條　諸學校生徒隊及教導隊ハ左ノ如シ

士官學校生徒隊（附表第十四號丙）
幼年學校生徒隊（附表第十四號丁）
要塞砲兵幹部練習所生徒隊（附表第十四號子）
教導團生徒隊（附表第十四號丑）
砲兵工科學舍生徒隊（附表第十四號寅）
軍樂學舍生徒隊（附表第十四號辰）
戸山學校教導大隊（附表第十四號戊）
砲兵射的學校教導中隊（附表第十四號庚）

第六條　軍務ヲ分掌スル部局ハ左ノ如シ

其一　中央部

參謀本部（附表第十號甲）
監軍部（附表第十號乙）

其二　地方部

近衞及師團司令部（附表第十一號甲乙）
近衞ハ東京師團ハ各師管ニ置ク
旅團司令部（附表第十一號丙）
近衞ハ東京其他ハ各旅管ニ置ク
大隊區司令部（附表第十一號丁）
各大隊區ニ置ク
警備隊區司令部（附表第十一號戊）
各警備隊區ニ置ク
屯田兵司令部（附表第十一號己）
北海道ニ置ク
憲兵司令部（附表第十一號庚）
東京ニ置ク
近衞及師團竝屯田兵監督部（附表第十一號辛壬癸）

各司令部所在地ニ置ク

砲兵方面（附表第十一號子）

本署ハ東京大阪及下ノ關ニ置キ支署ハ師團司令部及要塞司令部所在地ニ置キ其他ノ衛戍地ニモ支署又ハ武庫ヲ置クコトアルヘシ

工兵方面（附表第十一號丑）

本署ハ東京大阪及下ノ關ニ置キ支署ハ要塞司令部及重要ナル砲臺所在地ニ置ク

其三　特務部

東宮武官（附表第十二號甲）

外國留學將校同相當官（附表第十二號乙）

砲兵會議（附表第十二號丙）

工兵會議（附表第十二號丁）

衛生會議（附表第十二號戊）

陸地測量部（附表第十二號己）

將校生徒試驗委員（附表第十二號庚）

砲兵工廠（附表第十二號辛）

其四　衛戍部

病院（附表第十三號甲）

監獄（附表第十三號乙）

其五　諸學校

陸軍大學校（附表第十四號甲）

砲工學校（附表第十四號乙）

士官學校（附表第十四號丙）

幼年學校（附表第十四號丁）

戶山學校（附表第十四號戊）

乘馬學校（附表第十四號己）

砲兵射的學校（附表第十四號庚）

要塞砲兵幹部練習所（附表第十四號辛）

經理學校（附表第十四號壬）

軍醫學校（附表第十四號癸）

教導團（附表第十四號子）

砲兵工科學舍（附表第十四號丑）

蹄鐵學舍（附表第十四號寅）

被服工長學舍（附表第十四號卯）

軍樂學舍（附表第十四號辰）

其六　伴屬部

陸軍省分局ノ管理ニ屬スルモノ

軍馬育成所（附表第十五號甲）

東京、三本木、鍛治谷澤、青野、福元ニ置ク

重症病馬治療所（附表第十五號乙）

中央司計部（附表第十五號丙）

被服廠（附表第十五號丁）

各地監督部ニ屬スルモノ但北海道ヲ除ク

司計部（附表第十五號戊）

經營部（附表第十五號己）

第七條　本令附表中將校同相當官用乘馬ノ數ハ陸軍乘馬飼養條例ノ規定ニ依ル但一職ニシテ數官等ニ通スルモノ其人員一人ナルトキハ最上級ノ官等相當ノ馬數ヲ定員トシ又數人ナルトキハ其人員ヲ每官等ニ配分シ尙端數アレハ下級ヨリ逐次ニ一人宛上級ニ加算シテ各其官等相當ノ人員ニ應スル馬數ヲ定員トス

附　則

第八條　本令附表各隊編制表中ニ揭クル士官候補生ハ編制完備ニ至ルマテ當分其定員ヲ超過スルコトヲ得

第九條　左ニ揭クルモノハ當分ノ內從前ノ規定ニ依リ各左ノ期日ニ限リ之ヲ廢止ス

一　蹄鐵工　各滿期ノ日

二　野戰電信隊　明治二十三年十一月十六日

三　屯田兵各部各隊　明治二十四年三月三十一日

四　臨時砲臺建築部　同上

五　調馬卒　同上

六　近衛砲兵聯隊編成制替ノ爲メニ生シタル過員　明治二十四年十一月三十日

七　近衛、師團工兵隊編制替ノ爲メニ生シタル過員　明治二十四年一月二十七日

八　近衛工兵中隊　明治二十五年十一月三十日

九　調馬主管　〔第四、第六師團ハ明治二十四年十一月三十日〕〔第二、第三、第五師團ハ明治廿五年十一月三十日〕

十　海外留學生ノ內現今派遣ノ生徒ハ卒業歸朝ノ日

第十條　前條ノ外本令ニ揭クル各隊各部ニシテ從前ノ規定ニ係ル定員ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

（別表署之）

○軍艦

○軍艦團隊定員　明治廿三年十月勅令第二百三十五號

朕軍艦團隊定員ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（定員表略之）

○海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡スヲ得　明治廿三年十一月勅令第二百九十五號

朕海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外國軍艦ニ於テ石炭缺乏ノ際其供給ヲ請フヤキハ相當代價ヲ以テ海軍省貯藏ノ石炭ヲ讓渡スコトヲ得

○軍馬預託

○軍馬預託規則　明治廿三年九月陸軍省告示第九號

軍馬預託規則左ノ通相定ム

軍馬預託規則

第一條　軍馬育成所ニ於テ畜養スル軍馬ヲ人民ニ預託飼養セシムルトキハ此規則ニ依ル

第二條　軍馬預託ハ畜養馬匹ヲ放牧シ得サルトキ若クハ軍馬購買等ノ際ニ於テ繫畜ノ都合ニ依リ行フモノトス

第三條　軍馬預リ主ハ當該馬匹ノ寶主若クハ買上ケ地方ノ者ニシテ馬匹育養ニ慣熟シ身元確實ニシテ預リ馬希望ノ者タルヘシ

保證人ハ身元確實ノモノタルヘシ

軍馬預リ主及保證人ノ身元ハ市町村長ノ證明ヲ要ス

第四條　軍馬預託期限ハ預託ノ際育成所長之ヲ定メ其引上ケ期日ハ預託滿期ノ日トス但育成所ノ便宜ニ依リ預託期限内ニ於テ引上ケ若クハ更ニ規約ヲ用ヰス若干ノ延期ヲ爲スコトアルヘシ

第五條　軍馬預託料ハ預託滿期ノ後該馬匹飼養ノ結果ヲ審査シ明治二十三年勅令第六十七號陸軍給與令第二十三表ノ金額以内ヲ以テ其額ヲ定メ一時ニ下付スヘシ

預託滿期ニ至リ延期若クハ引續キ預託ヲ爲ストキハ其前期ノ預託料ハ前項ニ準シテ其額ヲ定メ一時ニ下付スヘシ

第六條　軍馬受授ノ爲メ輸送途中ノ費用ハ明治二十三年陸軍省令第九號軍馬輸送規則第五條ニ準シ各項ニ示ス金額以内ニテ支拂フモノトス但第一項ノ行程ハ豫メ起算地點（預リ主居住ヨリ最寄市町村）ヲ定メ該地點ヨリ受授地點迄ヲ計算シ第二項及第三項ノ費用ハ率連馬匹ノ頭數及實際通行里數ヲ酌量シ適宜

金額ヲ定メ支拂フヘシ

第七條　馬匹預託中天然若クハ不慮ノ事故ニ依リ疾病或ハ負傷ニ罹リ治療ヲ要セシトキ又ハ斃死シタルトキハ明治二十三年陸軍省令第九號軍馬輸送規則第五條第六項ニ準シ該項ニ示ス金額以内ニテ實費ヲ支拂フヘシ

第八條　預リ主馬預リ中ハ左ノ各項ヲ確守スヘシ

一　飼養品ニハ最モ注意ヲ加ヘ誠實ニ育養スヘシ

二　傳染病又ハ馬匹ノ健康ヲ害スルノ虞アルトキハ適當ノ豫防ヲナスヘシ

三　荷物ヲ駄シ或ハ不適當ノ運動ヲ爲サシムヘカラス但三歳以上ノ馬匹ニ在テハ運動ノ爲メ輕易ニ使用スルハ妨ケナシ

四　疾病或ハ負傷ニ罹リタルトキハ速ニ獸醫ニ就テ治療ヲ施シ若シ重症ノ兆アレハ診斷書ヲ添ヘ届出ヘシ

五　癈疾斃死ニ罹リタルトキハ其原因及景況之ニ對シ施シタル處置ヲ記載シ診斷書及證明書類ヲ添ヘ速ニ届出ヘシ

第九條　預リ主第八條ノ規定ヲ守ラス又ハ馬匹ノ健全ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ契約期限ニ係ハラス馬匹ヲ返納セシメ該馬匹審査ノ上損害ヲ生セシトキハ賠償ヲ命スルコトアルヘシ

癈疾斃死ノ原因預リ主ノ過失ニ出ルトキハ該馬匹ノ原價ヲ辨償セシメ之カ爲メ生スル費用ハ自辨スヘシ

第十條　軍馬ヲ預リタル者ハ馬匹受領ノ際別紙書式ノ預證書ヲ出スヘシ

書式　印紙貼用

軍馬預證

別紙名簿ノ馬匹明治何年何月何日ヨリ向フ何箇月間御預リ申候就テハ明治二十三年陸軍省告示第九號軍馬預託規則第四條第五條第六條第七條第八條第九條ノ趣承諾誠實ニ飼養可仕萬一不行届ノ廉有之御規定ノ御處分有之候共決シテ違背不仕候若シ本人ニ於テ此規約ニ背キ候トキハ保證人ニ於テ引受處辨可仕候依テ保證人連署證書如斯候也

年　月　日

預主　何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)　何府(縣)何族(平民)　氏名　印

保證人　何府(縣)何郡(市)何町(村)何番地住(寄留)　何府(縣)何族(平民)　氏名　印

何軍馬育成所長官姓名殿

前書預主何某及保證人何某ハ當市(町)(村)内ニ於テ一家ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年　月　日　何市(町)(村)長　氏名　印

(保證人他市町村ノ者ナルトキハ該地市町村長ノ證明ヲ受クヘシ)

第十八類　船舶

○船舶

○呉軍港規則　明治二十三年八月　海軍省令第十一號

第一條　軍港内ニ入ル船舶及海岸海上ニ在ル者ハ何人ト雖モ知港事ノ指示ニ違フコトヲ得ス

第二條　軍港ニ入港スル軍艦及西洋形商船ハ軍港外三里以外ノ所ヨリ投錨マテ出港スルトキハ航進ヲ始メタルトキヨリ港外ニ出ルマテ艦船名符字信號旗ヲ掲揚スヘシ

第三條　呉鎮守府所轄艦船ノ外如何ナル艦船ト雖モ司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ海軍專有區内ニ進入スルコトヲ得ス

第四條　海軍專有區内ニ進入スル艦船ハ知港事ノ指示ニ從ヒ錨地ヲ定ムヘシ但十五噸未滿ノ船ハ此限ニアラス

第五條　海軍專有區外ニ於テハ航路ノ妨ト爲ラサルニ於テハ艦船自由ニ錨地ヲ定ムルコトヲ得但知港事ノ許可ナク浮標ニ繫留スルコトヲ得ス又知港事ニ於テ港内ニ妨害アリト思考スルトキハ錨地ノ轉換ヲ命シ或ハ退却ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　汽船汽艇ハ火藥庫ヲ距ル百三十間以内ニ接近スヘカラス又艀舟漁

舟其他何人ト雖ヒ同距離内ニ於テ火ヲ焚クヘカラス

第七條　軍艦ノ外火藥劇發物ヲ積載セル船舶ハ司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ小麗女島烏小島以内小麗女島烏小島ヨリ烏小島ニ達スル想像線及兩島ヨリ兩島ニ最近ノ海岸ニ達スル想像線以内ヲ云フ以下同シ　ニ入ルコトヲ得ス

第八條　海軍專有區及小麗女島烏小島以内ノ海面ニ在テハ司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ何人ト雖ヒ漁業ヲナスコトヲ得ス

第九條　海軍專有區及小麗女島烏小島以内ニ在ル艦船ハ海中ニ物品灰燼砂石塵芥等ヲ遺棄スヘカラス但遺棄物アルトキハ其川ニ供スル船艇借用ヲ知港事ニ請求スヘシ

第十條　海軍專有區及小麗女島烏小島以内ノ海岸海面及同區内ニ注流スル河川ニハ何人ト雖モ定所ノ外ニ於テ物品灰燼砂石塵芥ヲ遺棄スヘカラス

第十一條　傳染病者アル艦船ハ海軍專有區及小麗女島烏小島以内ニ進入スルコトヲ得ス

第十二條　海軍專有區及小麗女島烏小島以内ニ於テハ禮砲又ハ司令長官ノ許可ヲ得タルモノヽ外砲銃ヲ發スルコトヲ得ス

第十三條　海軍兵學校前面左圖點線以内ニ在リテハ何人ト雖モ漁業ヲ爲シ若クハ船舶ヲ碇繫スルコトヲ得ス又兵學校川地内ニ在リテ赤旗ヲ掲ケタル時ハ船舶該點線以内ヲ經過スヘカラス

第十四條　軍港内ニ於テ浮標又立標ヲ設置セントスルモノハ司令長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　軍港内ニ於テ左ノ工業ヲ起サントスルモノハ起工ノ前ニ於テ鎮守府司令長官ノ許可ヲ受クヘシ但地方官ノ許可ヲ請クヘキモノハ先ツ其許可ヲ受クヘシ

一　棧橋ヲ架設シ波止場ヲ築造スル事

二　海面ヲ埋立テ海岸ヲ堀鑿シ又ハ海岸ニ石垣ヲ造ル事

三　道路ヲ開通シ橋梁ヲ架設スル事

四　山岡ヲ堀鑿スル事

五　森林ヲ伐採スル事

第十六條　司令長官ハ前條ニ掲クル工事軍港ノ防禦若クハ海軍ノ事業ニ妨害アリト認定スルトキハ許可ヲ與フヘカラス

第十七條　司令長官ハ許可ヲ與ヘサル工事ヲ爲ス者アルトキハ建築部官員ヲシテ之ヲ中止セシムヘシ

第十八條　軍港内衛生事務ノ施行ニ於テハ地方官ハ地方衛生吏ヲシテ鎮守府衛生會議ニ協議セシムヘシ（圖面略之）

○軍港要港規則違犯者處分ノ件　明治二十三年九月法律第八十三號

朕軍港要港規則違犯者處分ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○外國通航ノ郵船下ノ關福江兩港ヘ廻船特許

明治二十三年十月勅令第二百六十二號

朕外國通航ノ郵船ノ下ノ關福江兩港ニ廻船スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大藏大臣ハ郵便物、內地廻漕品及旅客運送ノ爲メ外國通航ノ郵船ヲ長門國下ノ關肥前國福江ノ兩港ニ廻船スルノ特許ヲ與フルコトヲ得

○特別輸出港規則中追加

明治二十三年十二月法律第百七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル特別輸出港規則追加ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特別輸出港規則追加

明治廿二年七月法律第廿號ヲ以テ定メタル特別輸出港中ニ釧路國釧路ヲ加フ

○釧路國釧路ヘ特別輸出港規則施行

明治廿二年七月勅令第百七號ヲ以テ特別輸出港ニ加ヘタル釧路國釧路ニ於テハ本年七月一日ヨリ特別輸出港規則ヲ施行ス

特別輸出港規則ハ法令類纂第三卷第十八類一丁ニ載ス

第四號

朕釧路國釧路特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年十二月法律第百七號ヲ以テ特別輸出港ニ加ヘタル釧路國釧路ニ於テハ本年七月一日ヨリ特別輸出港規則ヲ施行ス

○明治廿一年訓令第一號西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金整理方（但書改正 明治二十四年六月遞信省訓令第五號）

北海道廳　府縣

明治二十一年一月當省訓令第一號但書左ノ通改正ス

但一周歲受拂高ハ別表書式ニ倣ヒ調製シ翌年度四月末日迄ニ當省ヘ報告スヘシ

○船籍規則勅令

明治二十三年十月勅令第二百十九號

朕船籍規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船籍規則

第一條　日本船舶ハ西洋形日本形ヲ問ハス總テ船籍港ヲ定メ其地市町村役

場若クハ浦役場ノ船籍ニ編入スヘシ

第二條　船籍ニ編入セントスルトキハ國内ニ於テハ地方官廳國外ニ於テハ領事館ニ願出テ其積量ノ測度ヲ受クヘシ

第三條　入籍シタル船舶ニシテ登簿噸數十五噸以上ノ西洋形船百五十石以上ノ日本形船ナルトキハ遞信省ニ船籍證書ノ交付ヲ願出ッヘシ

第四條　船籍證書ニハ左ニ記載シタル條件ヲ記シ且年月日ヲ記スヘシ但日本形船ニ在テハ第一項ノ信號符字及ヒ第八項乃至第十七項ヲ除キ其石數ヲ記シ西洋形帆船ニ在テハ第十三項乃至第十七項ヲ除ク

第一項　船舶ノ番號信號符字

第二項　船名、原名

第三項　船籍港名、管轄廳名

第四項　甲板ノ層數、檣ノ數、索具ノ裝置、船體ノ材料、船骨ノ材料、船首ノ形狀、船尾ノ形狀

第五項　造船工長ノ氏名製造年月日、製造地名

第六項　船主ノ氏名住所（會社其他ノ法人若クハ二人以上ノ所有ニ係ルトキハ會社名若クハ管理人ノ氏名）

第七項　船舶ノ長、幅及ヒ深

第八項　量噸甲板下部ノ噸數

第九項　量噸甲板上諸部ノ噸數

內譯

甲板間ノ噸數

船尾室ノ噸數

圓室ノ噸數

其他諸室ノ噸數

第十項　總噸數

第十一項　登簿噸數

第十二項　乘組人常用室ノ噸數

第十三項　機關室ノ噸數

第十四項　機關ノ種類及ヒ數

第十五項　瀝鑵ノ種類及ヒ數

第十六項　推進器ノ種類

第十七項　公稱馬力

第五條　新造若クハ改造シタル船舶又ハ外國人ヨリ取得シタル船舶ノ假證書ハ前條第一項ヲ除キ船舶ノ種類ニ從ヒ其他ノ諸件ヲ記スヘシ

第六條　同一ノ船舶ニシテ再度以上假證書ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖モ其効力ハ初度ノ證書ニ記載シタル年月日ヨリ起算シ商法第八百三十條第二

項ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條　船籍證書ノ交付ヲ願出ツルトキハ手數料トシテ本證書ハ壹圓假證書ハ五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條　船籍證書ハ常ニ船内ニ保持シテ船長之ヲ監守シ稅關官吏、司檢官、警察官、領事其他正當職權アル者ニ於テ檢閱ヲ要スルトキハ何時ニテモ之ヲ開示スヘシ

第九條　船籍證書ヲ受有スル西洋形船ハ左ノ事項ヲ銘記シ且其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度之ヲ改記スヘシ

第一項　船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及ヒ船籍港名ヲ方三寸五分以上ノ國字竝羅馬字ヲ以テ記スヘシ

第二項　中央ノ船梁ニ船籍證書ノ番號及ヒ登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ該番號噸數ヲ彫刻シタル板ヲ固釘スヘシ

第三項　船首材及ヒ船尾材ノ外部兩側面ヘ水脚ヲ示ス爲メ一尺毎ニ方五寸ノ羅馬又ハ亞剌比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記スヘシ

第十條　船籍證書ヲ受有スル日本形船ハ船尾ニ船名、船梁ニ船籍證書ノ番號及ヒ石數ヲ記スヘシ

第十一條　船舶所有者船籍港ニ居住セサルトキハ本船ニ關スル事務ヲ代辨セシムル爲メ其船籍港ニ代理人ヲ置キ之ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ届出ツヘシ

第十二條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船籍面ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ノ書換ヲ申立ツヘシ

第十三條　船籍港ヲ移轉シタルトキハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十四條　船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其旨ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ申出且船籍證書ヲ返納スヘシ

第十五條　船舶ノ破壞、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキ若クハ日本船舶タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ本船ノ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ返納スヘシ

第十六條　本條例第八條乃至第十五條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十七條　明治十二年五月第十九號布告ニ依リ付與セシ西洋形船登簿船免狀ハ此規則施行ノ日ヨリ船籍證書ト見做シ本證書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十八條　明治三年正月布告商船規則同十二年二月第五號布告同年五月第十九號布告同十四年二月第十二號布告共他從前ノ成規中此規則ニ牴觸スルモノハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此規則ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

○同上規則施行延期　明治二十三年十二月勅令第二百九十六號

朕船籍規則ノ施行延期ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

本年十月勅令第二百十九號船籍規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

○船籍規則施行細則　明治二十三年十一月遞信省令第二十號

船籍規則施行細則左ノ通リ相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス（明治二十三年十二月遞信省令第二十四號ヲ以テ施行延期ス）

船籍規則施行細則

第一條　船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シタル者ハ其種類ニ從ヒ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ作リ本船々籍港所轄ノ市町村役場又ハ浦役場ヲ經テ本船ノ測度ヲ地方官廳ニ願出テ且同時ニ該役場ヘ船籍ノ編入ヲ請ヘシ

第二條　市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ前條ノ件名書ヲ調査シ五十石未滿ノ日本形船ハ其事項ヲ直チニ役場ノ船籍臺帳ニ登錄シ其他ノ船舶ハ件名書ヲ地方官廳ニ送達シ其積量ノ測度ヲ申請スヘシ

第三條　地方官廳ニ於テハ船舶積量測度規則ニ從ヒ之ヲ測度シ第三號若クハ第四號書式ノ測度表ニ依リ其積量ヲ算出シ第五號若クハ第六號書式ノ測度證書ヲ作リ件名書ヲ照査シ前條ノ市町村役場又ハ浦役場ヘ送付スヘシ

測度證書及ヒ件名書ヲ受領シタル市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ測度證書及ヒ件名書ニ依リ共事項ヲ船籍臺帳ニ登錄スヘシ

第四條　前條ノ船舶ニシテ船籍證書ヲ受有スヘキモノナルトキハ更ニ市町村長又ハ浦役人ノ奥書ヲ受タル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ船籍證書ノ交付ヲ遞信省ニ願出ヘシ但左記ノ船舶ハ船籍證書ヲ受有スルノ限ニアラス

一　國內水上ヲ運航スル船舶

一　端舟其他艤擢ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ艤擢ヲ以テ運轉スル舟

第五條　地方官廳ニ於テハ前條ノ願書及ヒ件名書ニ測度表ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ進達スヘシ

第六條　遞信省ニ於テハ件名書及ヒ測度表ヲ調査シ其船舶ノ種類ニ從ヒ第七號第八號若クハ第九號書式ノ船籍證書ヲ作リ之ヲ地方官廳ニ送付シ地方官廳ハ市町村長又ハ浦役人ヲシテ之ヲ船主ニ交付セシムヘシ但第十一條ニ係ル船舶ニ交付スヘキ船籍證書ハ遞信省ヨリ直ニ領事館ニ送付シ其旨ヲ船籍地方官廳ニ通知スヘシ

第七條　船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權

ヲ取得シ船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館ニ本船ノ測度ヲ請ヒ且假證書ノ交付ヲ願出ヘシ但本船々籍港ニ到着シタルトキハ速ニ第一條及ヒ第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　前條ノ願書ヲ受領シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ由リ其積量ヲ算出シ直ニ第十號第十一號若クハ第十二號書式ノ假證書ヲ作リ之ヲ願人ニ交付シ且同時ニ其證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ヲ本船々籍港地方官廳ニ送付スヘシ

第九條　假證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ノ送付ヲ受ケタル地方官廳ニ於テハ本船々籍港ニ到着ノ上其測度ヲ願出タルトキ送付ノ測度表ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキハ更ニ測度ヲ要セス直チニ測度證書ヲ作リ件名書ト共ニ市町村役場又ハ浦役場ニ送付スヘシ

第十條　內國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ若クハ船籍ヲ移轉シタルトキハ測度ヲ除クノ外第一條ノ手續ニ依リ其入籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ市町村長又ハ浦役人ノ奧印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シ其證書ノ交付若クハ書換ヲ遞信省ヘ願出ヘシ

第十一條　外國ニ於テ船舶ヲ製造シ又ハ他人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ單ニ外國地方ヲ航海シ本國ニ廻船セサル者ハ其事由ヲ具シタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ領事館ニ其測度ヲ願出テ同館ヨリ交付ノ測度證書ヲ本船々籍港ニ送付シ第一條ニ依リ其入籍ヲ請フヘシ但船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ本證書到達迄ノ間領事館ノ假證書ヲ願受ルヲ得ヘシ

第十二條　船籍港外ニ於テ船籍證書ヲ受有シタル船舶ノ所有權ヲ取得シタルトキハ測度ヲ除クノ外第七條ノ手續ニ依ルヘシ

第十三條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ市町村役場浦役場ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ市町村長又ハ浦役人ノ奧印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ其證書ノ書換ヲ遞信省ヘ願出舊證書ヲ返納スヘシ但積量ノ變更ニ係ハルトキハ更ニ測度ヲ受ケタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條　船籍證書又ハ假證書ヲ喪失若クハ毀損シタルトキ船籍港ニ於テハ其事由ヲ具シタル願書ニ市町村長又ハ浦役人ノ奧印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ其船籍證書ノ再渡若クハ書換ヲ遞信省ヘ願出ヘシ

船籍港外ニ於テハ其事由ヲ具シ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ直チニ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館ヘ假證書ノ交付ヲ願出ヘシ

第十五條　前條ニ依リ假證書ヲ交付シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ其事由ヲ詳記シ件名書及證書ノ謄本ヲ添ヘ速ニ本船々籍港ノ地方官廳ヘ通報スヘシ

第十六條　船籍規則第十五條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ浦役場ニ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ地方官廳ヲ經由シテ之ヲ遞信省ヘ返納スヘシ但假證書ナルトキハ其發出ノ官廳ヘ返付スヘシ

第十七條　船籍證書又ハ假證書ノ交付ヲ願出ル者ハ初渡、再渡、書換ヲ問ハス出願ノ際船籍規則第七條ニ揭クル手數料ヲ上納スヘシ

附　則

第十八條　明治十二年五月二十一日內務省丙第二十五號達ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　現在ノ船舶ハ此細則ノ施行ノ爲メ更ニ積量ノ測度ヲ要セス從來ノ噸數石數ニ依ル

（書式畧之）

○同上省令施行延期　明治二十三年十二月遞信省令第二十四號

本年月勅令第二百十九號船籍規則施行期限發布相成候ニ付テハ本年月十一當省令第二十號船籍規則施行細則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

○船籍規則第七條ノ手數料收納ヲ北海道廳長官及府縣知事ニ委任及其取扱手續　明治二十三年十二月遞信省訓令第八號

本年十月勅令第二百十九號船籍規則第七條ノ手數料收納ハ北海道廳長官府縣知事ニ委任ス其取扱手續ハ本年當省訓令第三號及左記ノ三項ニ準據スヘシ

北海道廳　府縣

一　手數料收納取扱ニ係ル會計規則第九十條第九十一條第一項第九十二條及第百條ノ本屬大臣ノ職務ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

一　船籍證書及假證書ヲ交付セル船舶ハ其船名竝船主氏名記入ノ仕譯書ヲ每月收入報告書ト同時ニ當省ヘ差出スヘシ但日本形西洋形ヲ分チ西洋形ハ汽船帆船ヲ別ツヘシ

一　收入科目ハ免許及手數料ノ款手數料ノ項船籍證書手數料ノ目ヲ以テ

整理スヘシ

○船籍證書ヲ要セサル船舶報告方　明治二十三年六月遞信省訓令第五號

來明治二十四年ヨリ船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件左ノ通定ム

但明治十五年六月農商務省第十一號達同十六年十月同省第十三號達同十九年四月遞信省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

一　船籍證書ヲ要セサル西洋船並日本形船（五十石未滿ハ除ク）ハ毎年十二月三十一日ノ現數ヲ第一號及第二號書式ニ依リ翌年二月十五日限リ當省ヘ報告スヘシ

一　前項ノ船舶ニシテ新造、解撤、賣買ニ係リタル員數ハ毎一箇年分取纏メ第三號及第四號書式ニ依リ前項ト同時ニ當省ヘ報告スヘシ

○同上訓令施行期限　明治二十三年十二月遞信省訓令第九號

本年十一月十五日當省訓令第六號船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

但明治二十五年十二月三十一日迄ハ從前ノ通リ當省ヘ報告スヘシ

北海道廳　府縣

第二十類　郵便　電信

○郵便

○郵便貯金條例　明治廿三年八月法律第六十三號

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

郵便貯金條例

第一條　郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス

第二條　郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條　郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條　郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條　郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セス

郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條　郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金全額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條　郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書ハ額面五拾圓又ハ五拾圓ヲ遞加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得

郵便貯金預ケ人貯金全額ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求スヘシ

第八條　郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以內ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以內ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人

ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條　郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム

第十條　郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條　郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シ其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ

其公債證書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條　郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條　郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除ク外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條　郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條　郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條　郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印紙ヲ免除ス

第十七條　本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第百五十七條乃至第二百二條及

第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

○郵便貯金條例施行細則　明治二十三年十一月遞信省令第廿三號

郵便貯金條例施行細則左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

郵便貯金條例施行細則

第一款　貯金預入

第一條　郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ到リ貯金預入申込書用紙ヲ申受ケ式ノ如ク記入シ記名調印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ

第二條　貯金預ケ人通帳ヲ受領シタルトキハ其通帳ニ氏名、住所、居所、身分、職業ヲ記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘヲ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ之ヲ所持スヘシ

第三條　貯金預ケ人再度以後ノ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ既ニ所持セル通帳ニ預ケ金ヲ添ヘテ貯金取扱局所ニ差出シ其記入ヲ受クヘシ

第四條　貯金取扱局所ノ主務者預ケ金及通帳ヲ受領シタルトキハ通帳ニ其金額及預年月日ヲ記載シ記名調印ノ上日附印ヲ押捺シテ預ケ金ノ領收ヲ證シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第五條　貯金預ケ人利子記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ

差出中預ケ金ヲナサントスルトキハ貯金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ自己ノ氏名ヲ陳述シ預ケ金ヲ差出シ其假領收證書ヲ領置スヘシ

前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ノ轉記ヲ受クヘシ

貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第六條　貯金預ケ人預ケ金記入濟ノ通帳ヲ受領シタルトキハ其場ニ於テ通帳記入ノ金額其他ニ相違遺漏等ナキヤヲ點檢シ若シ之アルトキハ直ニ訂正ヲ求ムヘシ

第七條　貯金ノ預入アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其原簿ニ登記シ貯金登記濟通知書ヲ預ケ人ニ送達スルモノトス

貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル日ヨリ三十日（島嶼又ハ交通不便ノ地ハ相當ノ時日ヲ加フ）以内ニ貯金登記濟通知書到達セサルトキハ其期日ノ翌日ヨリ又通知書到達セルモ其記載ノ金額年月日等相違アルトキハ到達ノ翌日ヨリ十日以内ニ其事故ヲ郵便爲替貯金局長ニ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第八條　貯金預ケ人ハ一ノ貯金取扱局所ニ於テ受領シタル通帳ヲ以テ他ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第九條　印形ヲ所持セサル者預ケ金ヲ爲サントスルトキハ引受人一名ヲ定ムヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ擔當人一名ヲ定ムヘシ

二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ但共同者中ノ一名ヲ加印者ト爲スコトヲ得

第十條　町村、學校、病院、社寺、會社、組合及共同ノ貯金ハ其町村、學校、病院、社寺、會社、組合若クハ總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト見做スヘシ

第十一條　印形ヲ所持セサル者ノ貯金ニ關シ調印ヲ要スル書類ニハ本人記名シ尚引受人記名調印スヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社組合等ノ貯金ニハ町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ尚擔當人記名調印スヘシ

共同者ノ貯金ニハ總代人記名調印シ加印者アルトキハ尚加印者連署スヘシ

第十二條　郵便爲替貯金局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人郵便爲替貯金分局受持區内ニ移轉シ又ハ同分局受持區内ノ

貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區内ニ移轉シタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ所持ノ通帳ヲ差出シ其引換ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テ通帳ノ引換及交付ノ手續ハ第五款ノ各條ニ準據スルモノトス

第二款　貯金拂戻

第十三條　貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但郵便貯金預所ニ於テハ拂戻金ノ拂渡ヲ取扱ハス

第十四條　貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申受ケ之ニ金額及拂戻金ヲ受取ラント欲スル局名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上通帳ヲ添ヘ之ヲ其局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ受領スヘシ

第十五條　貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其請求書到達ノ日ヨリ五日以内ニ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ノ居所ニ發送スヘシ

若シ相當ノ時限内ニ拂戻證書到達セサルカ又ハ到達セルモ金額其他ニ相違アルトキハ拂戻請求人ニ於テ郵便爲替貯金局長ニ宛テ其事故ヲ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ヨリ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第十六條　貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書ニ記名調印シ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局ニ差出シ拂戻金ヲ受領シ且通帳ノ返戻ヲ受クヘシ但貯金全額拂ノ通帳ハ返付セサルモノトス

第十七條　代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人屆書ヲ添ヘテ之ヲ拂渡局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ屆書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其局所ニ預入ヲ爲シタル預ケ金高ノ内金十圓迄又再度通帳ヲ所持スル者其再度通帳ヲ受領シタル局所ニ預金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其繰越金高ノ内金十圓迄ヲ限リ即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ一圓以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノトス

前項即時拂ノ請求ハ一箇月一回ヲ超ルコトヲ得ス

第十九條　貯金即時拂ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テ其請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求ヲ拒ムコトアルヘシ

第二十條　即時拂ヲ要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス

第二十一條　郵便爲替貯金局及同分局所在地ノ貯金取扱局所ニ於テハ貯金即時拂ノ取扱ヲ爲サヽルモノトス

第三款　貯金預ケ人異動

第二十二條　貯金預ケ人氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ屆出ヘシ但改印ニ係ル屆書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ

引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ノ變更ヲ要スルトキハ前項ニ準ス

第二十三條　共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ノ變更ヲ要スルトキハ前項同樣屆出ヘシ但引受人、擔當人、加印者連署ヲ以テ前任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ屆出ヘシ但前任者モ亦屆書ニ連署スヘシ若シ連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十四條　貯金預ケ人第二十二條及第二十三條ノ屆書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通帳ノ氏名、住所、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ廉ヲ訂正スヘシ

第四款　貯金通帳利子記入

第二十五條　貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通帳ヲ差出シタルトキハ之ヲ貯金取扱所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳差出人ニ其通達書ヲ送達シ通帳ハ其經由局所ニ返付スヘシ

通帳差出人前項ノ通達書ヲ受ケタルトキハ爰ニ領置セル通帳受取證書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入濟通帳ヲ受領スヘシ

第二十六條　貯金通帳差出人利子記入濟通帳ヲ前條ノ經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ通帳ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第五款　貯金再度通帳

第二十七條　貯金預ケ人所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ其通帳ヲ差出シ再度通帳ノ交付ヲ請求スヘシ但請求書及通帳ハ之ヲ貯金取扱所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

通帳亡失ノ爲メ再度通帳ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但再度通帳ノ交付ヲ請求シタル後前ノ通帳ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第二十八條　郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳發行通知書ヲ請求書經由ノ局所ニ廻送シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス

第二十九條　貯金再度通帳ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ該告知書及通帳受取證書ヲ請求書經由ノ局所ニ差出シ新規通帳ノ交付ヲ受クヘシ但請求人新規通帳ヲ請求書經由ノ局所外ニ於テ受取ラントト欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出スト雖モ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第三十條　貯金再度通帳發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ求メニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通帳ヲ調製シ前條ノ告知書及通帳受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス

第三十一條　貯金通帳毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手數料金十錢ヲ徵收スヘシ

手數料ハ再度通帳請求書ニ郵便切手ヲ貼附シテ前納スヘシ

第六款　貯金相續

第三十二條　貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セントスルトキハ預ケ人相續人連署ノ書面ヲ以テ通帳並相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ名前書換ヲ請求スヘシ

第三十三條　貯金預ケ人死亡シタルトキハ其家督相續人ニ於テ相續人タルコトヲ證明セル書面ヲ以テ通帳ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ貯金拂戻ヲ請求スルカ又ハ名前書換ヲ請求スヘシ但名前書換ヲ請求スルトキハ同時ニ相續人ノ印鑑ヲ差出スヘシ

第三十四條　第三十二條及第三十三條ノ名前書換ヲ要スル場合ニ於テ相續人既ニ自己ノ貯金通帳ヲ所持セルトキハ共ニ其通帳ヲ差出シ其相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十五條　前三條ノ場合ニ於テ通帳ヲ貯金取扱局所ニ差出シタルトキハ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第三十六條　家督相續人ナキ貯金預ケ人死亡シタルトキハ其貯金ヲ相續シタル者ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ第三十三條ノ手續ニ由リ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第三十七條　郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ貯金ノ讓與又ハ相續ニ關スル請求書ヲ受ケタルトキハ正當相續人タルコトヲ認ムル爲メ其請求人ヲシテ市町村長又ハ區長ノ奥書證明ヲ要メシメ若クハ其他ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七款　貯金拂戻證書ノ亡失、毀損汚斑

第三十八條　貯金拂戻ヲ書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金拂渡局ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ證書ヲ差出シ貯金拂渡認可証書ノ交付ヲ請求スヘシ

第三十九條　貯金拂戻証書亡失ノ爲メ貯金拂渡認可証書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ証人ヲ立テ其事實ヲ証明シ前條ノ手續ヲ

爲スヘシ但拂渡認可証書ヲ請求シタル後前ノ証書ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第八款　公債証書ノ購入、保管、下渡

第四十條　貯金ヲ以テ購入スヘキ公債証書ハ整理公債証書トシ總テ無記名トス

第四十一條　公債証書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス

時價トハ東京ニ於ケル購入當日ノ賣買價格ニ購入口錢ヲ加ヘタルモノトス

第四十二條　公債証書ノ購入ヲ爲ストキハ左ノ手數料ヲ徴收スヘシ

公債証書金額五十圓マテ　金二十錢

同　百　圓マテ　金三十錢

以上五十圓ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ加フ

第四十三條　公債証書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ通帳受取証書ヲ領置スヘシ

第四十四條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書購入請求書ヲ領收シタルトキハ其到達ノ日ヨリ七日以内ニ公債證書ヲ購入スルモノトス

第四十五條　公債證書購入ノ代金及手數料ハ郵便爲替貯金局ニ於テ請求人ノ貯金ヨリ拂出シ且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ

第四十六條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ之ヲ公債證書保管原簿ニ登記シ其保管證書及通帳ヲ請求書經由ノ局所ヲ經テ請求人ニ交付スヘシ

保管證書ニハ公債證書ノ記號番號金額購入代價及購入年月日ヲ記載スルモノトス

第四十七條　保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金局ニ於テ之ヲ受取リ其預ケ人ノ貯金ニ受入ルヘシ

第四十八條　保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スル者ハ其請求書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

下渡請求書ニハ其請求人ニ於テ公債證書ヲ受取ラント欲スル貯金取扱局ヲ指定スヘシ但郵便貯金預所ニ於テハ公債證書ノ渡方ヲ取扱ハス

第四十九條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書ヲ送達スヘシ

請求人前項ノ下渡證書ヲ受ケタルトキハ其證書受領ノ部ニ記名調印シ前ニ受領シタル受取證書ト共ニ下渡局ニ差出シ之ト引換ヘ公債證書ヲ受領スヘシ

第九款　雜則

第五十條　貯金預ケ人貯金事務ニ關シ郵便爲替貯金局又ハ同分局又ハ貯金取扱局所ニ差出ス書面ニハ所持ノ通帳ノ記號番號ヲ記載シ又之ヲ郵送スルトキハ其封皮ノ表面ニ貯金事務ト明記スヘシ

○郵便貯金利子割合 明治二十三年十一月勅令第二百七十八號

朕郵便貯金利子割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金ノ利子ハ來ル明治二十四年一月ヨリ一箇年元金百分ノ四分貳厘ト定ム

但本年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金額千圓ヲ超過シタルモノハ一箇年元金百分ノ三分トス

○郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則 明治二十三年八月遞信省令第十八號

本年勅令第百五號ニヨリ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則左ノ通相定ム

郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則

第一條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保證金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ大藏省預金局預金取扱所ニ預ケ入其保管證書ヲ得之ニ納付書ヲ添ヘ遞信大臣ニ納付スヘシ

第二條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ認可ヲ得タル後土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書二通ヲ製シ遞信大臣ニ差出スヘシ

第三條　遞信大臣ハ前條ノ申請ニヨリ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ郵便爲替貯金局長同分局長一等郵便電信局長一等郵便局長二等郵便電信局長二等郵便局長ニ命シ登記法第二十一條ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札附ノ儘之ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ書入證書ヲ添ヘ遞信大臣ニ納付スヘシ

第五條　遞信大臣ハ前各條ニ依リ身元保證金ノ納付濟トナリタルトキハ其納付濟證ヲ製シ出納官吏ニ交付スヘシ但明治二十三年勅令第四號第二條但書ノ場合ニ於テ遞信大臣ハ納付ノ都度其假納付證ヲ交付シ完納ニ至テ納付濟證ト交換スヘシ

第六條　明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ依リ身元保證金ヲ納付スルモノハ左ノ期限ニヨル

四期納付ノ分

第一期　六月末日マテ　第二期　九月末日マテ
第三期　十二月末日マテ　第四期　三月末日マテ
毎月納付ノ分
毎月末日マテ

第七條　郵便爲替及郵便貯金出納官吏土地若シハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第三條及第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルハ妨ケナシ

第八條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ハ遞信大臣會計規則シタル場合ニ於テハ其利札ヲ受取ルヘシ郵便貯金出納官吏ニ返付スヘシ公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用ニ於テ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預ケ入レタル金庫

第九條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ遞信大臣其書入證書ヲ第三條ノ各局長ニ送付シ書入ノ解除ヲ爲スタメ登記法第二十三條ノ手續ヲ爲サシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ

第百十條ノ責任解除ヲ認メテ之ヲ其出納官吏ニ返付スヘシ

第十條　前條ノ身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ遞信大臣其書入證書ヲ第三條ノ各局長ニ送付シ書入ノ解除ヲ爲スタメ登記法第二十三條ノ手續ヲ爲サシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返付セシムヘシ

前項ノ保管證書又ハ書入證書ハ身元保證金ノ納付濟證ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スルモノトス

第十一條　會計規則第百五條ニ依リ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ遞信大臣其身元保證金（土地又ハ公債證書ハ公賣ノ後）ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ差引シ其旨出納官吏ニ通知スヘシ

第十二條　遞信大臣會計規則第百五條第二項ニ依リ土地又ハ公債證書ヲ賣シタルトキハ同時ニ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ニ向テ公賣公告入費ノ辨償ヲ命スヘシ

第十三條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百二條第二項ニ依リ保證人ヲ立テ身元保證金ノ免除ヲ請求セントスルトキハ其情願書ヲ製シ遞信大臣ヘ差出スヘシ

第十四條　從前三等郵便電信局長及三等郵便局長ヨリ郵便爲替金及郵便貯金取扱ノ身元保證トシテ元遞信管理局長及一等郵便電信局長一等郵便局長ニ書入レアル土地又ハ公債證書ハ其書入ヲ變更スルノ必要ヲ生スル迄其儘三等郵便電信局及三等郵便局出納官吏ノ身元保證金トシテ取扱フヘシ

○郵便貯金預所ニテ貯金拂戻金ノ拂渡ヲ取扱ハサルニ附キ心得方

明治二十三年十二月
遞信省告示第二百八十五號

本年省令第二十三號郵便貯金條例施行細則第十三條ニ依リ來ル二十四年一月一日以降郵便貯金預所ニ於テハ貯金拂戻金ノ渡方ヲ取扱ハサルニ付郵便貯金預所ニ於テ拂渡スヘキ拂戻証書ニシテ本年十二月三十一日迄ニ拂渡ヲ了ヘサルモノハ其地郵便電信局郵便局（郵便電信支局郵便支局アル地ハ郵便貯金預所最近ノ本局又ハ支局）ヲシテ其渡方ヲ取扱ハシム

○東京郵便電信學校規則中改正　明治廿四年四月遞信省告示第百十六號

明治二十三年三月告示第五十八號東京郵便電信學校規則中左ノ通改正ス

東京郵便電信學校規則

第一章第一條第二條第三條第五條第六條元第十九條元第二十二條及甲號書式「東京郵便電信學」ノ七字ヲ「本」ノ一字ニ同書式「殿」ヲ「宛」ニ改ム

同章第二條「二年」ノ二字ヲ「四年」ノ二字ニ改ム

同章第三條「ニ甲乙ノ二科ヲ置ク」ノ九字ヲ「ノ學科ヲ甲乙ノ二科トシ」ノ十一字ニ同條中「通信」ノ二字ヲ「ニ關スル」ノ四字ニ改ム

第二章「敎」ノ字ヲ「學」ノ字ニ改ム

同章第七條甲科十一「交通」ノ下ニ「行政」ノ二字十三「實務」ノ上ニ「郵便電信」ノ四字ヲ加ヘ乙科九「電信」ノ二字ヲ削除シ十「郵便要項」ノ四字ヲ「交通政務要領」ノ六字ニ改ム

東京郵便電信學校規則ハ法令類纂第三卷第廿類廿四丁ニ載ス

第四章ノ下「募集云々」ノ七字ヲ「入學在學及退學」ノ七字ニ改ム

同章第十一條「其都度」ノ下「官報及新聞紙ヲ以テ」ノ九字ヲ加フ

同章第十二條一「ニ於テ」ノ三字ヲ各「ハ」ノ字ニ改メ「十五年以上」ノ下「ニシテ各二十年以下」ノ九字ヲ加ヘ「二「身體 云々」ノ七字ヲ「體格 試驗ニ合格ノ者」ノ九字ニ改メ三項ノ次ヘ左ノ一項ヲ加フ

「四　第十三條第十四條ノ資格ヲ有シ若クハ第十六條第十七條ノ試驗ニ合格シタル者」

同章第十四條「三級」ノ下八字ヲ「ヲ終リ該」ノ四字ニ改ム

第十五條「試驗ヲ要セス」ノ六字ヲ「校長ノ見込ニヨリ」ノ八字ニ「ルヲ許ス」ノ四字ヲ「學セシムルコトアルヘシ」ノ十一字ニ改ム

第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

「但本條及第十三條第十四條第十七條トモ合格者募集定員ニ超ユルトキハ合格者ノ內ニ就キ選拔スヘシ」

第十七條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ元第十八條以下順次繰下ク

「第十八條　體格試驗ハ醫師ニ托シ應募者ノ身體ヲ檢定セシムルモノトス」

同章元第十八條元第十九條元第二十條「校」ノ字ヲ「學」ノ字ニ改ム

同章元第十九條ノ次ヘ左ノ一條ヲ加ヘ以下順次繰下ク

「第二十一條　入學試驗ノ評點ハ第五章第三十四條乃至第三十八條ノ例ニ準ス」

同章元第二十條「者ハ」ノ下ニ「身元」ノ二字ヲ加ヘ「立テ」ノ二字ヲ「定メ」ノ二字ニ「在校證」ノ三字ヲ「誓約」ノ二字ニ改ム

同章元第二十一條「ノ公民」ノ三字ヲ「內ニ於テ一家計ヲ立ツルモノ」ノ十三字ニ改ム

同章元第二十三條「轉住シ」ノ下三十六字ヲ「タルトキハ代人ヲ定メ更ニ誓約書ヲ改ムヘシ」ノ二十字ニ改ム

同章元第二十四條「授業科チ」ノ下「免ス」ノ二字ヲ「課セス課業ニ要スル筆墨紙等ハ現品ヲ給與シ書籍器具ハ之チ貸與スヘシ」ノ三十二字ニ改メ但書チ削除シ本條ノ次ヘ左ノ三條ヲ加フ

「第二十七條　二學期間引續キ落第シタル者ハ退學ヲ命ス」

「第二十八條　疾病ニ罹リ一學期間引續キ出校セサルモノハ退學チ命ス」

「第二十九條　疾病又ハ已チ得サル事故ニ依リ退學セント欲シ保證人連署願出ルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スヘシ

但疾病ニ罹ルモノハ受療醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ」

第五章元第二十五條「驗」字ノ下ニ「評」ノ字チ加フ

同章元第三十條元第三十四條「點數」ノ上ニ各「評」ノ一字ヲ加フ

同章元第三十一條元第三十二條元第三十三條元第三十五條「點數」ノ上ニ各「評」ノ一字ヲ加フ

同章元第三十四條「學期ノ」ノ下「平均」ノ二字「學年」ノ下「評」ノ一字ヲ加フ

同章元第三十六條一「學年」ノ下「評」ノ一字チ加ヘ二及六ノ下「校」ノ一字ヲ「學」ノ一字ニ改ム

同章元第三十七條削除

同章元第三十九條ノ次ヘ左ノ一章ヲ加フ

「第六章　特待褒賞及懲罰」

元第五章第四十條チ左ニ改ム

「第四十條　卒業生中俊秀ナル者ハ本校長ノ見込ヲ以テ之チ選拔シ在校生トナシ更ニ必要ノ學科チ教授シ兼テ行政事務チ習修セシメ學資ヲ給與ス」

同章元第四十二條「特待」ノ上ニ各「在校生又ハ」ノ五字チ加フ

同章元第四十三條「一金圓」ノ一項チ削除シ「二」ノ字チ「一」ノ字ニ「三」ノ字ヲ各「二」ノ字ニ改ム

同章元第四十五條元第四十六條削除

乙號書式中誓約文チ左ニ改メ奥書末尾「東京府」トアルヲ「東京市（區）（村）」トアル

同章元第三十條「驗點」ヲ「評點」ト改ム

同章元第三十一條元第三十二條元第三十三條元第三十五條「點數」ノ上ニ各「評」ノ一字ヲ加フ

同章元第三十四條「學期ノ」ノ下「平均」ノ二字「學年」ノ下「評」ノ一字ヲ加フ

同章元第三十六條一「學年」ノ下「評」ノ一字チ加ヘ二及六ノ下「校」ノ一字ヲ「學」ノ一字ニ改ム

同章元第三十七條削除

同章元第三十九條ノ次ヘ左ノ一章ヲ加フ

「第六章　特待褒賞及懲罰」

元第五章第四十條チ左ニ改ム

「第四十條　卒業生中俊秀ナル者ハ本校長ノ見込ヲ以テ之チ選拔シ在校生トナシテ一箇月金八圓ヲ給シ更ニ必要ノ學科チ教授シ兼テ行政事務チ習修セシメ學資ヲ給與ス」

同章元第四十二條「特待」ノ上ニ各「在校生又ハ」ノ五字チ加フ

同章元第四十三條「一金圓」ノ一項チ削除シ「二」ノ字チ「一」ノ字ニ「三」ノ字ヲ各「二」ノ字ニ改ム

同章元第四十五條元第四十六條削除

乙號書式中誓約文チ左ニ改メ奥書末尾「東京府」トアルヲ「東京市（區）（村）」トアル

ヲ「區」ニ改ム

（印紙貼用）

誓約書

私儀今般御校（入學許可相成候ニ付テハ校則相守修業勉勵可致ハ勿論卒業ノ上ハ遞信省（ヘ奉職ノ日ヨリ四箇年間事務ニ恪勤シ何レノ地方（ヘ在勤被命候トモ決シテ異議ヲ申出ス又ハ猥リニ轉職辭任致ス間敷候仍テ誓約書如斯候也

年　月　日

肩書同前　氏　名　印

本校長宛

○電信

○電報局渡規則

明治二十三年八月遞信省令第十七號

電報局渡規則左ノ通相定メ來十月一日ヨリ施行ス

電報局渡規則

第一條　凡ソ電報ノ受信人ニシテ其電報ノ配達ヲ待タス郵便電信局又ハ電信局ニ就キ直ニ之ヲ受領セント欲スル者ハ豫メ書面ヲ以テ其配達ヲ受クヘキ局ニ其旨申出ツヘシ

郵便電信局又ハ電信局ハ其申出ニ對シ電報局渡證票ヲ交付スヘシ

第二條　電報ノ受信者郵便電信局又ハ電信局ニ於テ電報ノ受領スルトキハ其時々電報局渡證票ヲ當該局員ニ示スヘシ其電報受領ノ爲メ出頭シタルトキ及立去ルトキハ其旨ヲ當該局員ニ陳告スヘシ

第三條　郵便電信局又ハ電信局ニ於テハ電報局渡證票携帶者ヲ正當受信人ト見做シテ其電報ヲ交付スヘシ

第四條　電報局渡證票ヲ交付セル者ニ宛タル電報著信スルモ其證票携帶者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第五條　電報局渡證票ヲ所持スル者住所氏名ヲ變換シタルトキハ其旨書面ヲ以テ當該局ニ申出ツヘシ

第六條　電報局渡證票不用ニ屬スルトキハ之ヲ當該局ニ還納スヘシ

第七條　電報局渡證票ヲ亡失シタル者ハ速ニ其旨ヲ當該局ニ報告スヘシ此證票ハ當該局ヨリ更ニ證票ヲ交付スヘシ

第八條　電報局渡證票ヲ受領シタル者ハ電報局渡料トシテ一箇年六圓ヲ納ムヘシ

其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ揭ク四期ノ別ニ依リ一期分毎ニ之ヲ當該局ニ前納スヘシ但特ニ納期ヲ定ムルモノハ此限ニアラス

第一期　一月ヨリ三月マテ

第二期　四月ヨリ六月マテ

第三期　七月ヨリ九月マテ
第四期　十月ヨリ十二月マテ

第九條　一期ノ中途ニ於テ電報局渡証票ヲ交付シタルトキ其期ノ料金ハ年額ヲ十二分シ証票交付ノ月ヨリ其期ノ末月マテノ月數ニ應シテ之ヲ即納スヘシ

第十條　料金ノ既納ニ係ルモノハ一期ノ中途ニ於テ証票ヲ還納スルト雖之ヲ還付セス

第十一條　電報局渡料金ハ一等郵便電信局又ハ二等郵便電信局ニ於テハ通貨ヲ以テ之ヲ當該局ニ納付シ二等電信局又ハ三等郵便電信局ニ於テハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十二條　電報局渡証票ヲ受領シタル者其料金ヲ納付期限ニ完納セサルトキハ其証票ハ之ヲ無効トス

○電報差出方ヲ配達人ニ依托スル規程

明治廿三年十一月遞信省令第二十一號

電氣通信ノ利便ヲ增進センカ爲メ電報配達人ニ電報差出方ヲ依托スル規定左ノ通之ヲ定ム

一　返信料前納ノ電報、局待指定ノ電報及郵便電信局又ハ電信局ヨリ一里以外ニ配達スル電報ヲ受取リタル者ハ其電報配達人ニ依托シテ電報ヲ出スコトヲ得但左ニ掲グル電報ハ此限ニアラス

一　萬國電信條約書ニ據リ發送スヘキ電報
二　返信料ヲ前納スヘキ電報
三　豫算ヲ以テ料金ヲ納付スヘキ電報
四　受領証ヲ要スル電報

二　前項ニ據リ電報ヲ依托スル者ハ配達ヲ受ケタル電報ノ受取紙ニ「電報依托」ノ文字及其料金額ヲ記載シ之ヲ配達人ニ交付スヘシ其電報ニシテ祕密ヲ要スルモノハ切手貼附ノ部分ヲ配達人ニ示シ後之ヲ封緘スヘシ

三　電報ヲ依托スル者電報ノ交付ヲ遲延シ五分時間ヲ超過スルトキハ電報配達人ハ其依托ヲ待タスシテ立去ルコトアルヘシ

四　電報配達人ニ依托シタル電報ハ其配達人當該郵便電信局又ハ電信局ニ持歸リタル時ヲ以テ受付時刻トナス但閉局後ニ持歸リタルトキハ閉局後受付ヲナスヘキ電報ヲ除クノ外翌日開局ノ時ヲ以テ受付時刻トナスヘシ

○電信線電話線建設條例

明治廿三年八月法律第五十八號

朕電信線電話線建設條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

電信線電話線建設條例

第一條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ營造物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス

官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得

其邸宅構內ニ入ルヲ要スル片ハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ証票ヲ携帶スヘシ

第三條　遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲ス爲メ必要アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得

其建設通信ニ障碍アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

第六條　遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條　左ニ揭クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ

一　建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害

二　瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用

三　伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

第八條　第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長(未タ市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戶長)ヲシテ之ヲ評定セシム

市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以內ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

○電話通信時間　明治廿三年十二月遞信省告示第二百六十四號

電話交換規則第四條ニ依リ電話所ニ到リ電話通信ヲ爲スコトヲ得ルノ時間

左ノ通リ之ヲ定ム

一　毎年三月一日ヨリ十月三十一日迄　午前六時ヨリ午後十時マテ

一　毎年十一月一日ヨリ二月末日迄　午前七時ヨリ午後十時マテ

○電話交換規則中改正　明治廿三年十一月　遞信省令第二十二號

電話交換規則第三條第三項及第十三條左ノ通リ正ス

第三條

三　規定ノ時間ニ於テ和文電報送受ノ爲メ郵便電信局又ハ電信局ト直接ノ電話通信

第十三條　電話交換局アル市町外ニ電話器ヲ設置スルモノ及一人ニシテ同一ノ家屋又ハ地所内ニ於テ同一ノ回線中ニ二箇以上ノ電話器又ハ電話器ノ外ニ電鈴ヲ設置スルモノハ第十一條使用料ノ外左ノ料金ヲ增加スヘシ

一　市町外ノ地ニ電話器ヲ設置スルトキハ其市町ノ境界ヲ去ル三町迄毎ニ一箇年料金參圓

二　二箇以上ノ電話器ヲ設置スルトキハ一箇ヲ除キ其他一箇毎ニ一箇年料金八圓

三　別ニ電鈴ヲ設置スルトキハ一箇毎ニ一箇年料金八拾錢

電話交換規則ハ法令類纂第三卷第廿類五十四丁ニ載ス

○同上　明治二十四年一月　遞信省令第一號

電話交換規則第十五條第二項及第十六條左ノ通改正ス

第十五條

二　加入者ハ通貨ヲ以テ其月分ノ電話料ヲ翌月十日迄ニ電話交換局ニ納付スヘシ

第十六條　加入者ニシテ第三條第三項ニ據リ電報ヲ各地ニ發送スル爲メ郵便電信局又ハ電信局ニ電話通信ヲナシタルトキハ其月分ノ電報料ヲ通貨ヲ以テ翌月十日迄ニ其郵便電信局又ハ電信局ニ納付スヘシ

○同上　明治二十四年六月　遞信省令第六號

電話交換規則第十二條左ノ通改正ス

加入者納期ニ至リ使用料、電話料又ハ電話ニ由リ發送シタル電報料ヲ納付セサルトキハ其電話通信ヲ停止シ若クハ加入ヲ除クコトアルヘシ但加入ヲ除キタルトキハ其既納ノ料金ヲ還付セス

○明治廿三年省令第四號（電信取扱規則第三十七條岐對馬ノ下ニ壹岐對馬ヲ加フ）（但書ヲ削除）　明治二十四年四月　遞信省令第三號

明治二十三年三月遞信省令第四號但書ハ本日ヨリ之ヲ削除ス

○電信取扱規則中改正追加　明治二十四年七月　遞信省令第八號

明治十八年五月太政官布達第七號電信取扱規則第五十六條ニ左ノ但書ヲ追加シ本年八月一日ヨリ施行ス

但鐵道所屬電信取扱所ニ於テ追徵スルトキハ追徵證書ニ郵便切手ヲ貼付セス

○同上　明治二十四年七月　遞信省令第九號

明治十八年五月太政官布達第七號電信取扱規則第百十一條乃至第百十六條左ノ通改正シ本年八月一日ヨリ施行ス

但本令施行期日後ニ到著シタル電報ト雖モ其期日前ニ發シタルモノニ付テハ從前ノ規則ヲ適用ス

第百十一條　郵便ニテ返信料前納電報ノ送達ヲ要スルトキハ尙書留郵便ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百十二條　返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲メ著信局ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一　返信料前納ノ金額及之ニ對スル字數（數文ハ語數）

一　受信人名

一　發信局名、發信年月日及發信番號

一　本書發行ノ年月日

第百十三條　返信料前納電報ノ返信ハ何レノ郵便電信局電信局ヨリ發送スルヲ問ハス返信料前納ヲ證明シタル返信用紙ニ記載シテ差出スヘシ其返信電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其超過額ニ相當スル郵便切手ヲ貼付スヘシ

第百十四條　返信料前納證書使用ノ期限ハ發行ノ日ヨリ六十日以內トス此期限ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第百十五條　返信電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ前納シタル日ヨリ百二十日以內ニ返ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

返信料前納證書不用ニ屬スルトキハ證書發行ノ日ヨリ百二十日以內ニ返信料前納電報ノ發信人ヨリ其證書ヲ添ヘ返信料ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得

第百十六條　受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其事由ヲ發信人ニ報知スル爲メ著信局ヨリ電報ヲ以テ其旨發信局ニ報知シ此報知

電信取扱規則ハ法令類纂第二卷五百九十一丁ニ載ス

明治十八年第九號布達ハ法令類纂第二卷六百十一丁ニ載ス

電報ハ返信ノ代ト見做スヘシ但和文一音信分歐文五語分ヲ超過シテ返信料ヲ前納シタルモノハ發信人ヨリ其超過額ノ還付ヲ遞信省ニ請求スルコトヲ得其請求期限ハ第百十五條ニ同シ

居所不明其他ノ事故ニ依リ返信料前納証書ヲ受信人ニ交付スルコト能ハサルトキハ七日間著信局前ニ其旨ヲ掲示シ此期限内ニ尚交付スルコト能ハサルトキハ前項ノ例ニ依テ處分スヘシ

○明治十八年第九號布達（壹岐對馬及朝鮮國ニ發着スル電報料及海外電報ノ國内傳送料）中改正

明治十八年五月第九號布達本文中「壹岐對馬及」ノ五字ヲ刪除シ及別紙第一第二第三第四第五ノ五項ヲ左ノ通リ改正刪除シ本日ヨリ施行ス　明治二十四年四月　遞信省令第二號

第一項ヲ左ノ如ク改ム

一　本邦ヨリ朝鮮國ニ發著スル釜山迄ノ電報一音信料四拾錢トス但對馬釜山間ハ三拾錢トス

第二項及第三項中

「壹岐對馬及朝鮮國」トアルヲ「本邦ヨリ朝鮮國釜山」ト改ム

第六項中

「壹岐對馬ヲ除ク」ノ七字ヲ刪ル

第七項中

「壹岐對馬及」ノ五字竝鄉ノ浦長崎間、嚴原長崎間ノ料金ヲ刪ル

○遞信省ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ電信電話手數料金額割合改正　明治二十四年六月　閣令第三號

明治二十一年勅令第七十八號鐵道所屬電信電話線公衆ノ通信取扱規則第三條ニ依リ同年閣令第二十號ヲ以テ定メタル遞信省ヨリ鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者ニ交付スヘキ手數料金額ノ割合左ノ通改正ス

一　鐵道所屬ノ電信電話線ノミヲ用テ傳送シタルモノハ其電報料ノ全額又遞信省ノ電信電話線ヲ混用シテ傳送シタルモノハ其電報料ノ三分一ニ相當スル手數料ヲ交付スヘシ

但鐵道所轄ノ官廳又ハ其所有者二名以上ノ電信電話線ヲ混用シタルトキハ鐵道電信取扱所ノ發信ニ係ルモノハ發信取扱所ヲ所轄スル官廳又ハ其所有者ニ郵便電信局又ハ電便局ノ發信ニ係ルモノハ著信取扱所ヲ所轄スル官廳又ハ其所有者ニ之ヲ交付スルモノトス

二　鐵道電信取扱所ニ於テ別使配達又ハ艀船配達ヲ爲シ若ハ電報受取証又ハ電報正寫ヲ交付シタルトキハ其配達料又ハ手數料ノ全額ニ相當スル手數料ヲ交付スヘシ

第二十一類　公債　預金

○公債

○海軍公債證書條例中削除 明治二十三年八月勅令第百七十六號

海軍公債證書條例ハ法令類編第二卷第二十一類六百六十五丁ニ載ス

朕海軍公債證書條中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年勅令第四十七號海軍公債證書條例第八條第二項ヲ削除ス

○明治二十年大藏省令第三號（海軍公債利子拂渡期限及取扱準據方）中削除 明治二十三年八月大藏省令第十九號

明治廿年三月大藏省第三號ハ法令類編第二卷六百六十九丁ニ載ス

明治二十年三月大藏省令第三號中「第十七條及第十八條」ノ九字ヲ削除ス

○整理公債取扱順序第十五條中加除 明治二十三年十一月大藏省令第三十號

整理公債取扱順序ハ法令類編第二卷六百七十五丁ニ載ス

明治十九年十月大藏省令第三十號整理公債取扱順序第十五條中「利子」以下四十三字ヲ削除シ更ニ同條「拂渡スヘキ」ノ下ヘ左ノ三十四字ヲ追加ス

利子ハ償還スヘキ證書ニ付帶スル當期利札ニ對シ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

○預金

二　鐵道電信取扱所ニ於テ別使配達又ハ艀船配達ヲ爲シ若ハ電報受取証又ハ電報正寫ヲ交付シタルトキハ其配達料又ハ手數料ノ全額ニ相當スル手數料ヲ交付スヘシ

第二十一類　公債　預金

○公債

○海軍公債證書條例中削除 明治二十三年八月勅令第百七十六號

海軍公債證書條例ハ法令類編第二卷第二十一類六百六十五丁ニ載ス

朕海軍公債證書條中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年勅令第四十七號海軍公債證書條例第八條第二項ヲ削除ス

○明治二十年大藏省令第三號（海軍公債利子拂渡期限及取扱準據方）中削除 明治二十三年八月大藏省令第十九號

明治廿年三月大藏省第三號ハ法令類編第二卷六百六十九丁ニ載ス

明治二十年三月大藏省令第三號中「第十七條及第十八條」ノ九字ヲ削除ス

○整理公債取扱順序第十五條中加除 明治二十三年十一月大藏省令第三十號

整理公債取扱順序ハ法令類編第二卷六百七十五丁ニ載ス

明治十九年十月大藏省令第三十號整理公債取扱順序第十五條中「利子」以下四十三字ヲ削除シ更ニ同條「拂渡スヘキ」ノ下ヘ左ノ三十四字ヲ追加ス

利子ハ償還スヘキ證書ニ付帶スル當期利札ニ對シ月割ヲ以テ仕拂フモノトス

○預金